



国際ロータリー第2760地区

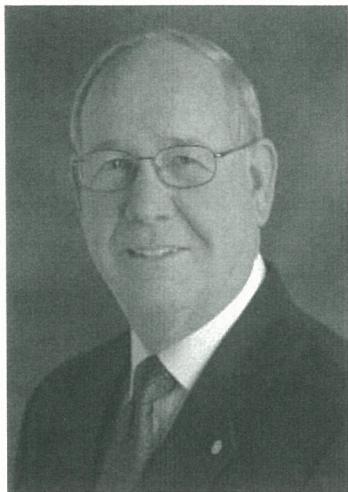
2010年～2011年度

WCS活動報告書



世界社会奉仕委員会

2010-11年度 R1テーマ



レイ・クリンギンスミス

2010-11年度国際ロータリー会長

米国ミズーリ州カーチスビル

親愛なる朋友ロータリアンの皆さん

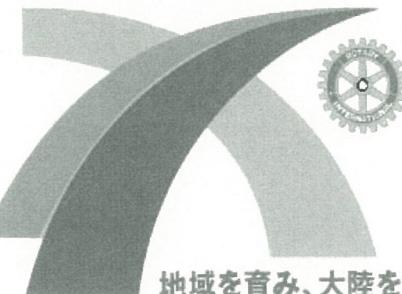
ロータリーとは何か。ロータリー・クラブとは何をする団体なのか。ロータリアンは、会員候補者やロータリーに関心を持っている人々からこういった質問をよく受けますが、簡潔に数分で、しかも効果的に答えるのは難しいものです。

ロータリーの第一標語である「超我の奉仕」は私たちの利他的な性質をとらえてはいますが、先の2つの質問に答えてくれるものではありません。そこで私は、「ロータリアン以外の人々にロータリーの目的を説明すること」と「ロータリアンにロータリーの原則の重要性を再確認してもらうこと」、この2つの目標を満たす簡潔なテーマを探す決心をいたしました。

そして適切な言葉を探す上で、四大奉仕部門を再検討していたところ、クラブ奉仕と職業奉仕はどちらも人生を讃美し、善き市民となるよう私たちを導いてくれるものであると気づいたのです。また、社会奉仕と職業奉仕を合わせるなら、地元の地域社会をより住みやすく、働きやすい場所にすることができるでしょう。一方、国際奉仕は、国や大陸を異なる海外のクラブと協力し、世界理解、親善、平和を広め、世界をより良い場所にするための機会を、私たちに与えるものです。

ロータリーが、ロータリー・クラブの連合体であると同時に、奉仕の精神から成り立っていることを忘れてはなりません。私たちは、「奉仕」「親睦」「多様性」

2010-2011年度国際ロータリーのテーマ



地域を育み、大陸をつなぐ

強調事項

- ボリオの撲滅
- 青少年プログラムの推進
- 人道的プロジェクトの推進
- 平和と紛争の予防／紛争解決
- 疾病予防と治療
- 水と衛生設備
- 母子の健康
- 基本的教育と識字率向上
- 経済と地域社会の発展

ロータリー歴

2009-10年度	国際ロータリー会長エレクト
2005-06年度	ロータリー財団副管理委員長
2002-06年度	ロータリー財団管理委員
1985-87年度	国際ロータリー理事
1975-76年度	地区ガバナー

「高潔性」「リーダーシップ」というロータリーの中核となる価値観を分かち合う必要があるのです。

ロータリーの真髄を表す多くの語句を検討した結果、ロータリーの現在の使命を表し、私たちの業績を強調するために、私たちが得意とすること、すなわち、次のテーマを最終的に選びました。

地域を育み、大陸をつなぐ

この簡潔な語句が、ロータリアンとしての私たちの存在と私たちの活動を的確に言い表すものであると賛同していただけることを願っております。ロータリーは世界でも比類のない優れた組織です。私たちは、地元地域社会の精神とリソースを育んでいます。また、住みやすく働きやすい世界をつくるために、世界中の人々の善意をつないで協力と支援を得ることにかけては、世界でも私たちの右に出る団体はないでしょう。エド・カドマン元会長の言葉どおり、「ロータリーは、画一化ではなく、結束である」のです。ロータリアンである私たちは、誠に恵まれています。

レイ・クリンギンスミス
2010-11年度国際ロータリー会長

国際協議会でのRI会長の挨拶

地域を育み、大陸をつなぐ

「カリフォルニア、ヒア・アイ・カム」という歌をご存知の方も多いのではないでしょうか。昨年からこの集いを夢に描き、思いを馳せてきた私たちの心を歌ったような懐かしのメロディーです。時が来て、今はすでに「カリフォルニア、ヒア・アイ・カム」ではなく、「カリフォルニア、ウイー・アー・ヒア」すなわち、「私たちはカリiforniaにいる」に変わりました。新たなロータリーの指導者チームが、満を持してやって来たのです。

ロータリー・ボランティアの才能が結集されたネットワークには、目を見張るものがあります。私が壇上に上がる際に流れた音楽は、ロサンゼルスでのロータリー年次大会を推進する目的で、トルーマン州立大学の学生16名により、カーカスビルという小さな町でレコーディングされたものです。この曲のアレンジとバンドの指揮は、わがロータリー・クラブ会員であるランディー・スマス氏が担当しました。あの音楽は、彼らの才能と超我の奉仕の精神の結晶です。

そして、今お聴きいただいている懐かしの曲はメアリー・サリーさんの演奏によるもので、この1週間、彼女はご自身の時間と才能を捧げてくださいます。音楽には人間の精気を奮い立たせる力がありますので、この協議会を通じて随所でメアリーさんの音楽の才能の恩恵にあずかることができるでしょう。米国オクラホマ州出身のロータリアンであるメアリーさんは、ロータリー奨学生としてウイーンで音楽を学んだ経験の持ち主です。ロータリー財団の申し子、メアリー・サリーさんに拍手をお願いします。

お話ししたいことが山ほどありますので、まずは、地区ガバナーが特に高い関心を寄せている来年度のテーマ・ブレザーから始めましょう。はじめてテーマ・ブレザーを採用したのはポール・ハリスだとお思いの方もいらっしゃるかもしれません、実は、この伝統が始まったのは25年前です。

テーマ・ブレザーが導入されたのは、カルロス・カンセコ氏が RI 会長を務めた 1984-85 年度のことでした。その発起人となったのが、当時、私の地区的ガバナーを務めていたジム・フィッシャー氏で、これを伝統として受け継いでいくことにも力を注いだ人物です。弟さんとともにスポーツ用品店を経営していたジムさんは、「ロータリーの国際大会で仲間がすぐに見分けられるように、鮮やかな色のブレザーが欲しい」と同期のガバナーが話

しているのを聞き、その年のガバナー・チームのために鮮やかな黄色のブレザーを大量に注文したのです。この黄色いジャケットは、「スズメバチ」の異名をとり、すぐさまロータリアンの間で話題となり、カンザスシティで開かれた 1985 年の国際大会では注目の的となりました。

このブレザーが大人気を博したことを見て、M.A.T. カバラス 1986-87 年度 RI 会長が、1986 年ナッシュビルで開催された国際協議会で販売するため、「ハーバード・クリムゾン」の名にふさわしい深紅のブレザーを作ってくれと、ジムさんに注文しました。ブレザーの人気は大変なもので、ジムさんは以来長年にわたり、会長が変わるとたびに新しい色のブレザーを提供することになりました。その後のことは私がお話しするまでもありませんが、ここで、テーマ・ブレザーをロータリーの伝統へと昇華させた二人のヒーローに敬意を表したいと思います。セントルイス出身のジム・フィッシャー・パスト地区ガバナー、そして、フィリピン出身の M.A.T. カバラス元 RI 会長のお二方です。

来年度のブレザーの色については、皆さんご存知のとおり、バーミンガム大会中、ガバナー・ノミニー会議で赤紫と既に発表いたしました。今回、私たちのブレザーは、事前購入できるようにしたことによって、価格を半分に抑えることができました。価格の面だけではなく、それよりもっと重要な教訓も得ることができました。従来どおりのやり方を見直すことで、よい良い方法が見つかったのです。これを機に、クラブや地区で既に時代遅れになってしまっているやり方など、ロータリーに存在するほかの慣習も見直してみたいものです。肝心なのは、伝統的な慣習のすべてを見直し、明らかにもっと良い別の方法があれば、新しい伝統を始めるべきだということです。

さあ、それでは、次期地区ガバナーの 2 番目の関心事項である RI のテーマに焦点を移したいと思います。適切なテーマを選ぶにあたって、私はじっくりと考えを巡らせました。その過程で歴代 RI 会長のテーマをすべて参照し、種類別に分けてみることにしたのです。最新版の「公式名簿 (Official Directory)」に載っている最初のテーマは、1949-50 年度のもので、初期のほかのテーマ同様、目標を連ねた非常に長いテーマとなっています。私たちが今日テーマと呼んでいる形のものは、3 つのキーワードから成る短いテーマで、1950 年代に始まりました。「ロータリーは活動する希望」、「我等の資源を

開発しよう」、「将来を造るに助力しましょう」が、この例です。

もう少し新しいテーマになりますと「真心の行動、慈愛の奉仕、平和に挺身」や「ロータリーの心を あなたの住むところ 私たちの世界 そこに住むすべての人々に」、「行動 行動に努めよ 理解に途を求めるよ 指導力を高めよ」など、長いものも出てきます。また、「参加し敢行しよう！」、「手をさし伸べよう…」、「ロータリーは分かちあいの心」といった短いものもあります。

動詞から始まり、行動を促すテーマとしては、「友達になろう」、「手を貸そう」、「率先しよう」などがあります。ほかには、要点を強調するテーマもあります。「あなたが鍵です」、「人類が私たちの仕事」、「まことの幸福は人助けから」がその例です。テーマの中に「ロータリー」という言葉が含まれているものが、16ありました。「ロータリーに生きよう」、「ロータリーを楽しもう！」、「ロータリーは分かちあいの心」、「ロータリーを祝おう」、「ロータリーは希望をもたらす」などです。

奉仕という言葉が含まれているテーマは、「超我の奉仕」、「奉仕の灯で道を照らそう」、「ロータリアン——奉仕に結束—平和に献身」の3つです。英語の「bridge」という言葉が含まれているテーマは、「隔りを取り除こう」、「生気を与える 身につけよ 友愛の橋をかけよ」、「人類はひとつ 世界中に友情の橋をかけよう」の3つです。

こうしてロータリーのテーマを見ていく過程で、もう1つの重要な面が見えてきました。それは、ほとんどのテーマがロータリアンだけに呼びかけるもので、ロータリアン以外の人々を対象としていない点です。この両者に呼びかけるテーマを考えるとき、脳裏に浮かんだのが、ロータリーのスーパー営業マンであるフランク・デブリン氏の勧告でした。エレベーターに乗り込んだ瞬間から降りるまでの短い間に、ロータリアンではない人々にロータリーのことを売り込む簡潔なメッセージを、私たちの誰もが用意しておくべきだと、デブリン氏は言っています。そこで私は、「ロータリアン以外の人々にロータリーの目的を説明すること」と「ロータリアンに自分たちの活動の意義を再認識してもらうこと」、この2つの目標を満たす簡潔なテーマを探す決心をいたしました。

そして適切な言葉を探す上で、四大奉仕部門を再検討していたところ、クラブ奉仕と職業奉仕はどちらも人生を讃美し、善き市民となるよう私たちを導いてくれるものであると気づいたのです。また、社会奉仕と職業奉仕を合わせるなら、地元の地域社会をより住みやすく、働きやすい場所にすることができるでしょう。一方、国際奉仕は、国や大陸を異にする海外のクラブと協力し、世界理解、親善、平和を広め、世界をより良い場所にするための機会を、私たちに与えてくれます。そこで、海外

と地元地域の両方で活躍するロータリアンのユニークな存在をどのように表現すればよいのかと、考えあぐねました。

次に、ジェームズ・コリンズの名著「ビジョナリー・カンパニー 2」に書かれている非営利団体への助言について考えてみました。コリンズの助言は、将来の針路を見極めるために次の3点を考えよというものです。1)会員が情熱を抱いているものは何か。2)あなたの団体が世界一と誇れるものは何か。3)団体のリソースをつき動かすものは何か。

これら3つの問いは、ロータリー財團の未来の夢計画を立てる際の指針となりました。私も、ロータリアンの情熱、独創性、寛大さを的確にとらえた言葉を探る上で、この3つの問い合わせ振り返ることになったのです。ここで少し立ち止まってみましょう。ロータリーを的確に表す3つないし4つの言葉を、皆さんも考えてみてください。ロータリーの外にいる人々にも私たちの目的が分かり、ロータリアンにとっても会員であることを誇りに思えるような言葉です。

適切な言葉を探す過程で、ロータリーが、ロータリー・クラブの連合体であると同時に、奉仕の精神から成り立っていることを忘れてはなりません。私たちは、「奉仕」「親睦」「多様性」「高潔性」「リーダーシップ」というロータリーの中核となる価値観を分かち合う必要があるのです。さあ、ロータリーの真髄に迫る魔法の言葉は何でしょうか。

昨年、この場でジョン・ケニー会長が思慮に富んだテーマを発表されてからというもの、私は数多くの言葉や語句を検討してきました。その結果、ロータリーの現在の使命を表し、私たちが得意とすることに焦点を当て、最終的に次のテーマを選びました。「地域を育み、大陸をつなぐ」

この簡潔な語句が、ロータリアンとしての私たちの存在と私たちの活動を的確に言い表すものであると賛同していただけることを願っております。ロータリーは世界でも比類のない優れた組織です。私たちは、地域社会の精神とリソースを築いています。このことを、わが地区的昨年度のガバナー、エリザベス・ウソヴィッチ氏が、次のように見事に語ってくれました。「クラブに前向きな意欲がみなぎると、地元地域をも元気にすることができる。そして私たちの存在と奉仕によって地域社会が活性化されると、新しい会員がもたらされる。こうして素晴らしい相乗効果が生じるのだ」と。

ロータリーの奉仕の精神を実現できれば、私たちはクラブと地域社会の両方を動かすことができるというウソヴィッチガバナーの言葉は、真実です。私たちロータリアンの間で、地域社会づくりにおいてロータリーが世界

で最も秀でているという考えは浸透していますが、ロータリーの外では必ずしも認められている考え方とは言えません。しかし、大陸をつなぐことに関して言えば、親善によって世界中の人々を結びつけ、世界をもっと住みやすく働きやすい場所にするために協力と支援を結集させることにかけては、ロータリーが世界一であることを疑う人は少ないでしょう。エド・カドマン元会長の言葉どおり、「ロータリーは、画一化ではなく、結束にある」のです。この目的に向けた結束こそが、私たちを世界最良の組織に成し得る要素です。ロータリアンである私たちは、誠に恵まれています。

ロータリー・クラブと地区的功績、そしてロータリーの華々しい成功を祝う今、忘れてならないのは、ロータリーを世界の絵舞台に送り出すために惜しみない努力を払ってきた無数のロータリアンの遺産の上に、今の私たちがあるという事実です。私たちにはロータリアン諸先輩という模範があります。国際協議会では、元会長や元役員に出会う機会があります。皆さん、私がロータリーの例会に出席してきたこの 50 年間、率先して活動してこられた方ばかりです。

そうです、ロータリー奨学生となったときからさかのぼって、ロータリー歴 50 年と言えることを、私は誇りに感じています。故郷ミズーリ州の小さな町、ユニオンビルのクラブの賢明にして寛大な計らいによって、奨学金申請の推薦を受けてから南アフリカへの留学に向けて出国する日まで、私は無料ですべての例会に出席させていただきました。私が生まれ故郷初の留学生となれたのは、ひとえにロータリーのおかげです。

これまで 5 万人近くの奨学生が私と同じ機会を享受し、およそ 6 万人の GSE チームメンバーが別の国、あるいは別の大陸で学ぶ機会を得てきました。それだけではありません。10 万人以上のロータリー青少年交換学生が、母国を離れ、海外のホストファミリーのもとで暮らしてきました。また、ボリオという身体の自由を奪う病の感染者数の減少にロータリーが大きく貢献してきた事実についても考えてみましょう。昨年の感染者は 2 千人以下で、1979 年の 50 万人という数字と比べると、世界的に 99.9 パーセント減少しています。今、私たちは世界史上最も悲惨な病気の一つに数えられるボリオを撲滅しようとしているのです。さらに、クラブとその会員は、毎年、ロータリー財団へ行う寄付の推定 10 倍の資金を地元地域のプロジェクトに費やしていることも、忘れてはなりません。社会奉仕プロジェクトの年間支出は、何十億ドルという金額になるはずです。

こうした驚異的な数字を思えば、今現在、ロータリアンであることの素晴らしいことを誰もが実感することでしょう。実際、世界を本当によりよい場所にするために時間

と才能を捧げるのに、ロータリーほどふさわしい組織がほかにあるでしょうか。ともにロータリーに対する誇りを確かめ合う一方で、皆さんの責務が大きく変わることにも目を向けてください。皆さん、間もなくロータリーの新ガバナーとなられます。わずか 5 カ月後には、最も優れた組織としてのロータリーの地位を保ち続けるだけでなく、さらなる高みへと引き上げていく責務を、私たちには共有することになります。成功は、皆さん一人ひとりがどれだけの時間と才能を捧げ、地区内のクラブのために、友として、相談相手として、また応援団長として力になる覚悟があるかに、大きくかかってきます。船団は最もスピードの遅い船に合わせて進みますが、ロータリーにも同じことが当てはまります。ですから、ここにいらっしゃる地区ガバナー・エレクト全員が全力で進んでいく必要があるのです。百年前の 1910 年 8 月に初のロータリー・クラブ大会を開催した国際ロータリーが奉仕の新世紀に乗り出す中、遅れを取り、ロータリーといふ船団の速度を落とさせるようなないようにしなければなりません。

リーダーの素質を備えた皆さんに、リーダーとなる意志があるならば、必ずやロータリーにさらなる栄華がもたらされることでしょう。時間と労力という代償を払う覚悟が私たちにあるなら、きっとできます。120 万というロータリーの会員数は、世界人口が 60 億人であることを考えれば、小さな数字かもしれません。しかし、著名な文化人類学者、マーガレット・ミードの貴重な助言を思い起こしてください。「思慮と熱意のある少人数の人々に世界を変えることなどできないとみくびってはいけない。実際には、それが世界を変える唯一の方法なのだから」

そうです、私たちは世界を良い方向へと変えてきたのです。そして、今後も変え続けていくのです。現在のような不況下にあっても、さらに良い変化をもたらすことができるでしょうか。「イエス・ウィー・キヤン」、私たちはできます。そうです、私たちはともにやり遂げます。やり方はシンプルです。来る年度を成功へと導くために必要なのは、ロータリアンが熱意を抱き、世界一得意としていること、すなわち「地域を育み、大陸をつなぐ」ことに専念するよう、力の限り、クラブと地区を励ましていくこと、それだけなのです。



国際ロータリー第2760地区

WCS活動報告書

2010年～2011年版

地区内各クラブの報告



平成23年度

半田ロータリークラブ国際奉仕医院員会報告

国際奉仕委員長 榊原 明美

1) 半田ブータン青少年交流

平成22年7月25日から31日 半田市の中学生3名と
引率の先生に同行してブータンの学校視察

2) 平成23年3月

ブータンの言語であるゾンカ語と公用語の英語のポケット
辞書を950冊寄贈（20万円）
裏表紙に半田ロータリークラブからの寄贈の旨を印刷

以上



2010-11 年度 常滑 RC 国際奉仕活動報告

常滑ロータリークラブ

国際奉仕委員長 清水昭博

事業 「カンボジアの子ども達をアンコールワット遺跡への研修支援」

実施月日

- 2010年10月19日 カンボジア シュムリアップ市内教師養成学校付属小学校 6年生児童73人と先生3人
- 2010年11月17日 カンボジア シュムリアップ市内 モクネアク小学校 6年生児童108人と先生2名
- 2010年11月27日 カンボジア シュムリアップ市内 ワットダムナツ小学校 6年生児童63人と先生2名

内容

会員・家族13名で現地へ赴き、カンボジアのアンコールワット遺跡近隣の子ども達を遺跡への社会見学研修支援を行なった

この事業により子ども達の自国の遺跡を初めて目にする感動また、遺跡への意識を持つことによって崩壊しつつある遺跡に対し今後の修復補修・保存等への意識の継続を期待するものである

- ・カンボジアへの訪問を前に例会毎に会員の皆さんからの支援金を集め、学用品を購入し衣料品と併せて現地へ持参し子ども達にプレゼントした
- ・現地でのバス乗車手伝い・引率等 子ども達の学校へも訪問し交流をした



WCS活動（フィリピン）報告

東海ロータリークラブ

国際奉仕委員長 月東金夫

日 程：平成22年7月17～19日（土～月）

訪問先：フィリピン

・パサイミアRC

・カローカンノースRC

参加者：河合孝治（会長）、北川修一（幹事）、佐野宏樹（奉仕プロジェクト委員長）

月東金夫（国際奉仕委員長）、加古恭之（国際奉仕副委員長）、小島博也（副幹事）

小嶋洋一 竹内敬雄

フィリピン・マニラ空港に少し遅れて到着し、その足で毎週土曜日に行われている「スープキッチン」の視察とWCS援助金の授与のため、合同プロジェクト先のパサイミアRCを訪問した。スープキッチン会場では、パサイミアRC会長はじめ多くの方の熱烈歓迎をうけ、簡単なセレモニーの後、援助金（150,000円）を河合会長よりホセ パサイミアRC会長に手渡した。会場では大勢の子どもが笑顔でおかゆをすすっており、子どもたちに参加者で用意した菓子の詰め合わせを配布した。

次の訪問地カローカンノースRCの例会場に向かう。メンバーはみな若くイザベラ カローカンノースRC会長は32才のことだった。ここでも熱烈歓迎をうけ、自然に食事会になり和気藹々とリッラクスした雰囲気のなか腹もよくなつた頃、セレモニーが始まった。イザベラ会長の点鐘のあと、イザベラ会長の挨拶に続き、河合会長の挨拶、小嶋洋一君のカローカンでのWCSの秘話などの挨拶、講演と続き、河合会長よりイザベラ会長にWCS援助金（150,000円）を手渡した。その後、東海RC WCSプロジェクトの奨学金授与で、対象の大学生10名の紹介がなされた。カローカンノースRCの1年の活動がスライド上映され、いろいろなプログラムを精力的に行っている事に感心した。



パサイミアRCのスープキッチン会場にて



河合会長よりパサイミアRCホセ会長へ
援助金贈呈



カローカンノースRCの例会にて

WCS活動（タイ）報告

東海ロータリークラブ
国際奉仕委員長 月東金夫

日 程：平成22年11月12～16日（金～火）

訪問先：タイ ウタラジット

合同例会（ウタラジットRC、ピッチャイRC、シラーサRC、ラブレーRC）

参加者：河合孝治（会長）、菊池玲子（副会長）、北川修一（幹事）

佐野宏樹（奉仕プロジェクト委員長）、月東金夫（国際奉仕委員長）

加古恭之（国際奉仕副委員長）、小島博也（副幹事） 小嶋洋一 早川式彦

増岡達一 山中初子 佐藤恵理子（事務局）

11月12日午前11時にタイ バンコクに向け中部国際空港から出発した。1日目の宿泊地チェンマイには現地時間の夕方6時30分ごろに着き、カルチャーセンターで民族舞踊を見ながら夕食を楽しんだ。

2日目に目的地ウタラジットに向かい夕方到着した。ウタラジットRC、ピッチャイRC、シラーサRC、ラブレーRCの歓迎を受けて合同例会が開催された。主幹クラブのピッチャイRC副会長のNO NGNUCH IMURAさんの歓迎挨拶、河合会長から友好と歓迎のお礼の挨拶の後、4クラブの会長にお土産と援助金を手渡した。その後も楽しい食事会が続き、ますます友好が深まった。

3日目は援助施設の視察のためピッチャイに向かった。ピッチャイはウタラジットから南へ1時間ほどの所で、ピッチャイスクールは中学、高校の6学年の2400名の生徒と149名の先生がいるマンモス校とのことだった。しかし、生徒の家庭は貧しく施設建設の資金が集まらないとのことで、校庭の一角に飲み水の浄化施設をWCSの援助金で建設したいと副校長のサワダ・パンサムさんの挨拶があり、河合会長の激励の挨拶で無事今回の目的が達成された。しかし、今年前半に完成している施設の見学が、滞在時間の関係でできなかつたことが残念だった。お昼過ぎに4時間半をかけチェンマイに戻り、チェンマイ空港よりバンコクに飛んだ。

バンコクは、この数年の間に徐々にきれいで良くなってきており、車も新車が多く走るようになってきた。しかし、田舎はまだ数年前とほとんど変わっていないように思われ、まだまだWCS活動を必要としている感じた。



タイ
ウタラジットでの
合同例会



ピッチャイRCへ援助金を贈呈
(河合会長よりイムラ会長へ)



各テーブルに分かれて
交流会



東知多ロータリークラブ 2010-2011 年度
国際奉仕活動報告書
事業報告および収支報告

東知多ロータリークラブ理事会

2011年3月4日

東知多ロータリークラブ

国際奉仕委員会 委員長 山本さゆり
副委員長 高津忠男
ロータリ財団委員会委員長 高津忠男

以下のとおり本年度国際奉仕事業を終了しましたのでご報告します。
また、会計報告を以下のとおり添えてご報告申し上げます。

【国際奉仕事業の内容】

日 時 2010年12月6日（月）贈呈式 別紙スケジュール参照
場 所 タイ国 NAN県
事 業 (1) 中古自転車贈呈プロジェクト
 (2) 図書贈呈プロジェクト
贈呈先 (1) NAN県 小学校35校 中古自転車450台贈呈
 (2) NAN県 小学校 3校 図書247冊贈呈
事業協力クラブ ①バンコク スリーオンロータリークラブ
 ②バンコク ラパオロータリークラブ
 ③NAN県 ナンロータリークラブ
贈呈式 • 県知事 • 郡長 • 市長 • D.3360ガバナー ビラチャイ
• NANロータリークラブ プラーン会長 他4RC • NANライオンズクラブ 他
• NAN県小学校35校（自転車）・NAN県小学校3校（図書）
• バンコクスリーオンクラブ 中村会長・ラパオロータリークラブ・東知多RC 5名
総勢500名での開催

贈呈内容 (1) 自転車贈呈 式典終了後 学校単位で贈呈
(2) 図書贈呈 代表校1校（養護学校）へ贈呈に出向き、
おやつ贈呈（ケーキ・アイスクリーム）をしました。

*図書贈呈プロジェクトにおいて図書の運送費とこのおやつ贈呈の
事業に要した費用はラパオRCが負担され合同事業となりました。
現地クラブとの交流そして子供達に直接贈呈できたことが、現地
の確かなニーズの把握と事業の重要性を確認できました。

事業予算および決算

収入	予算	決算
奉仕会計国際奉仕事業費	170,000円	169,800円
新地区補助金	170,000円	170,200円
合 計	340,000円	340,000円
支出	予算	決算
(1) 中古自転車贈呈事業	250,000円	250,000円
(2) 図書贈呈事業	90,000円	90,000円
合 計	340,000円	340,000円

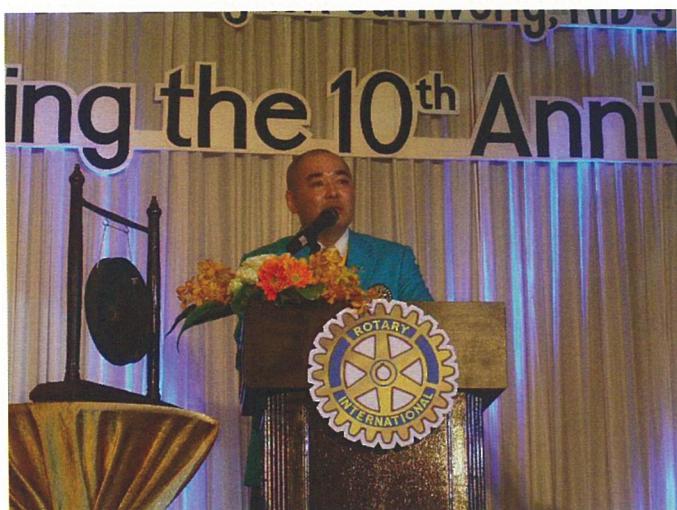


半田南ロータリークラブ国際奉仕委員会

2010～2011 年度活動報告

国際奉仕委員長 榊原邦彦

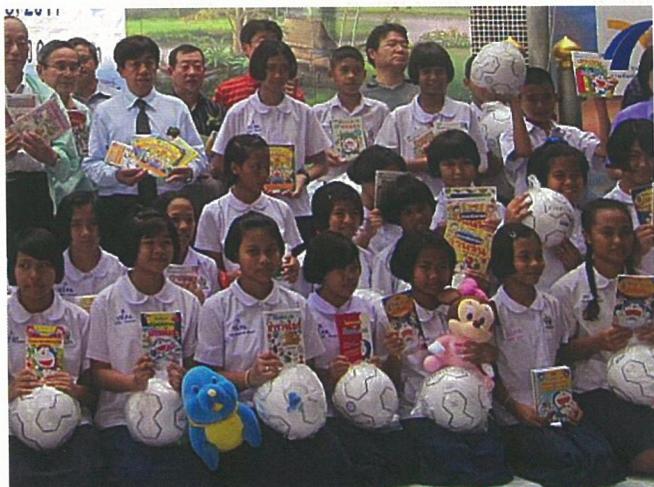
当クラブは、平成 16 年に友好クラブを締結したバンコクのスリウォンロータリークラブを毎年訪問し、このクラブを通して支援金を贈り、支援先である学校訪問をおこなっています。スリウォンロータリークラブは、今年 3 月に創立 10 周年を迎え、その記念式典に参加しました。また、WCS 活動の図書支援で本を贈りました。本は、まんがのドラえもんが、人気でした。



創立 10 周年記念式典
スリウォンロータリー会長



創立 10 周年記念式典参加



図書支援



図書支援
ドラえもんが人気

2010-2011 大府ロータリークラブ WCS（世界社会奉仕）活動報告・会計報告

2010-2011 大府ロータリークラブ
国際奉仕委員会 委員長 笹田 栄治

日 時：2010年11月5日～8日

場 所：フィリピン マニラ ヴァレンツエラ市

協 力：第3800地区 ヴァレンツエラロータリークラブ

義捐金：**100,000円** (手術費用 110US\$/1人) 約11人分

例会時にはヴァレンツエラ市長 (RC メンバー) の出迎えもあった。

市内の私立カロオカン市民病院にて白内障の治療手術にも立ち会った。

活動報告

白内障は手術すれば簡単に治る病気ですが、フィリピンの主に貧困層においては月収8000ペソ程度(約15000円)で白内障の手術費用110US\$が支払えずそのまま放置することによって視力障害や失明に至つてしまい職を失ってしまう人が多数みえます。

本年度 木村正嗣会長率いる大府ロータリークラブは、少しでも多くの患者に治療を受けて頂き社会復帰して頂くために、会長以下7名のメンバーでフィリピン マニラのヴァレンツエラロータリークラブの例会に出席し白内障の治療のための義捐金10万円を寄贈した。

その後市内の私立カロオカン市民病院にて白内障患者たちに会いました、その治療手術にも立ち会った。

100,000円を通訳費用とヴァレンツエラRCのニコBOXへ寄付

本事業費：合計200,000円

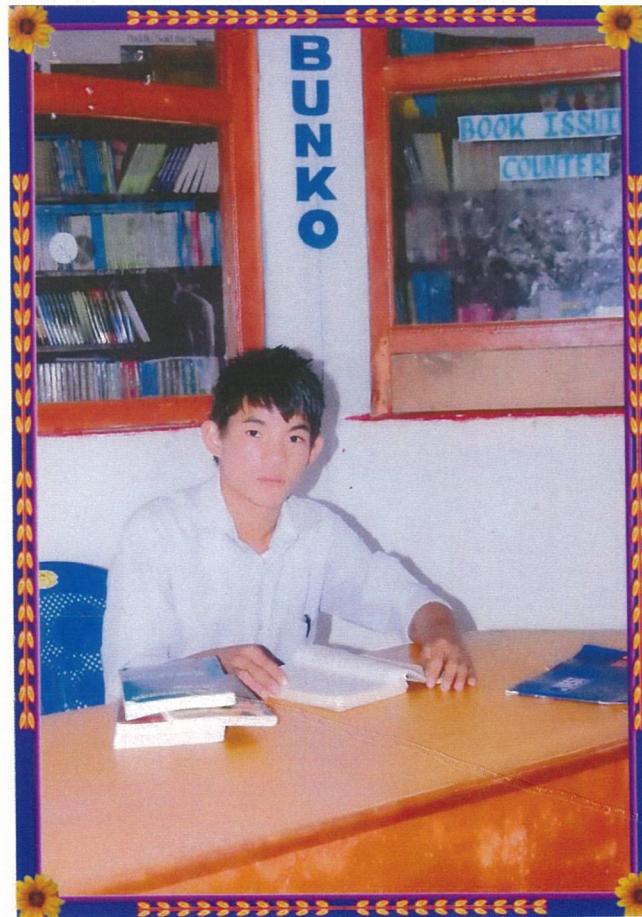


① さいたまユネスコ協会を通じて

ネパールの子供達の奨学支援並びに学校建設の目的で毎年寄付をしており、今年度も継続して寄付を行ないました。

10名の里子から手紙と近況の写真が届きます。

手紙を例会で回覧、週報にも掲載し、会員で個人的に支援したい方を募ります。



WCS 活動 一宮中央 RC

フィリピンにおけるボランティア歯科医療活動

期間 2010 年 8 月 11 日～16 日

団員 日本から 40 人

フィリピン側 34 名

場所 ①フィリピン・マニラ市内 貧困地域

{内容} 住民への歯科治療及び口腔衛生指導

{受診者} 約 500 人

②ケソン市 サンビセンテ小学校

{内容} 口腔衛生啓発活動

フッ素洗口指導

{対象児童} 3000 人



犬山 RC 国際奉仕委員長
田中茂生

2010~2011 年犬山ロータリークラブ WCS 活動報告

我が犬山 RC が長年姉妹関係にある台湾草屯 RC とともに青少年の健全育成の目的で、草屯鎮（市）にある中学校へ毎年、犬山文庫として書籍を送って以来 10 年になります。現在、草屯には、草屯中学、旭光中学、日新国民中学の 3 つの中学校があり毎年順番に WCS 資金を提供しており、本年度は、日新国民中学に送る順番でした。ここ数年来、図書のみにこだわらずそれぞれの学校の事情により青少年の健全育成のために役立つ備品という立場に立って行ってきましたが、本年は、学校側の要望によりクラブ活動の施設への提供となりました。

昨年 11 月 12 日に施設の完成引き渡しとなりましたが、使用状況の観察として、本年 5 月 26 日より草屯 RC を訪問した際、日新國中学を訪問し拳闘部のリング施設等に活用した WCS の現状を確認しました。礼儀正しく、目を輝かせて真剣に練習する子供たちを見てきました。この秋の大会では、おかげさまで南投県の大会で優秀な成績を収めたと校長先生にも大変感謝されました。来年には、市同士が友好関係を結び、犬山市と草屯市の中学校同士のクラブ活動でのスポーツ交流が生まれ、永年の WCS 活動が実を結ぼうとしています。



名古屋南RCのWCS活動についてのご報告

名古屋南ロータリークラブ

2010~11年度 国際奉仕委員長 篠田 美樹

1. サンパウロ南RCとのWCS活動協同での経緯

名古屋南RCは姉妹提携RC（サンパウロ南RC）間でWCS活動を継続的に進めているところです。近年ブラジルはブリックスの一員として著しい経済発展をとげている一方世界最大といわれる貧富の格差が存在し多くの社会問題を内包しています。当RCのWCS活動の主たるもののは、過去多くの問題を抱えながらも一歩先に先進国の仲間入りを果した日本が、ブラジルの福祉向上の一助としてサンパウロの困窮する人々・将来国を担う子供達に対しての一貫した奉仕支援活動であります。WCS活動自体は相互の当事者間の深い理解がなければ満足な結果が得られないものであり、それなりのリスクが伴うものと思われます。この点において“姉妹RC”という強みにおいて、幅広い現地のニーズに沿った支援活動が両者間で継続的なものとなったと考えております。過去の両者での5回にわたるWCS活動の主なものは以下の通りです。

- ・1996年・2005年にはサンパウロのサンタクルス日本病院に医療器具の提供
- ・2003年にはアメリカンスクールにコンピューター関連教材の提供

2. 未来の夢計画のグローバル補助金を利用した国際奉仕プロジェクトを希求

(1) 現在検討している支援プロジェクトの経緯

今般、未来の夢計画において、グローバル補助金の利用できるパイロット地区に幸いにも名古屋南・サンパウロ南RCの両者が選択されていることから国際奉仕活動の一環として取り上げられないかと、両RCにおいて真摯に検討を行いました。その結果、現在のブラジルは前述したとおり、長期的には所得格差による貧困からくる諸問題の解決に対して倫理面での投資等の人道的援助も含めた対応も必要である一方、緊急的課題として、社会的弱者への保護支援及び医療保健活動についての人材と施設・設備の充実への支援がより必要と考えるに至りました。つまり本地域には多くのニーズが考えられますが、現在国民の死因の第一位になっている心血管障害のうち特に増加が著しい老人の介護医療の問題を取り上げることとなりました。

(2) 支援プロジェクトについて

サンパウロの介護ホームの医師や看護師は増大する老人医療介護において、心臓発作の防止や呼吸障害の対処の為の重要な医療機器の必要性を訴えています。本プロジェクトはこの要請に対応すべきとし以下の医療機器をこの施設に送り、老人介護の面において、全国民の死亡原因第1位の心血管障害除去に少なからず貢献をする内容であります。尚、プロジェクトの総額は32300ドル(US)を予定しております

また、地元サンパウロの Rio Branco 大学（この大学はロータリーファウンデーションが経営している）の啓蒙活動や地元のボランティア活動団体もこの介護ホームへの定期的慈善訪問など行っていますが、資金的な裏づけに乏しく、具体的な健康医療活動には至りにくいのが現実です。



(3) 今後の取り組み

名古屋南RCでは積み重ねてきたサンパウロ南RCとの信頼関係をもとに、是非上記プロジェクトの成功を期するとともに、今後の国際奉仕活動が持続的なものとなるように活動してまいります。

名古屋東南ロータリークラブ

10-11年度 WCS活動に関する報告について

主な活動

1. DDFを活用したマレーシア「子どもの森計画」プログラム協力・現地訪問
2. 留学生会館留学生の夜間例会での交流、里親家族としてクリスマス家族例会ご招待
3. ネパール ジャワラケル・マンジュシュリ RCとの姉妹提携締結



2010年11月5~8日 マレーシア・サバ州 オイスカ・「子どもの森計画」視察旅行（集合写真）

以上

2010～2011 年度のWCS活動報告

R.I.D.2760 西名古屋分区
名古屋栄ロータリークラブ

2010～2011 年度 国際奉仕委員会
委 員 三浦 幸治

当 RC では、国際奉仕事業の一環として、バングラデシュにあるダッカ村の小学校に 3 カ年の継続事業として様々な支援を行っている。昨年度は、書棚等の図書施設および図書約 500 冊と、ベンガル語訳の日本の絵本 1000 部の寄贈を行った。

その際に実際の現地の様子を観察し、彼らの置かれている衛生環境の改善が急務と判断。

その経験を踏まえ、今年度は、新地区補助金の助成の下、インフラ建設プロジェクトを企画。

2011 年 2 月 2 日～2月6日、現地ロータリークラブ、ダッカ・コスマポリタン RC の協力の下、簡易水道(井戸)・トイレの設置及び衛生指導を中心とした国際奉仕活動を次のように実施した。

当 RC より、山田靖典会長、原野勝至会長エレクト、羽田野副幹事(本事業4回目の参加)、私 三浦幸治、そして弊社社員でバングラデシュ出身の A.K.M. フラハッドの計5名で参加。2月3日、ダッカ市内にて、コスマポリタン RC の手配した衛生指導員と、現地ロータリアンらと共に、日本製のワンボックスカーに乗り込み、約1時間かけて目的地であるダッカ郊外のデムラ村へと向かった。途中の車中にて、珍しく感じる風景・光景等を写真撮影。また、山田会長、原野会長エレクトを中心に、バングラデシュに関する質問・疑問・歴史をはじめ、政治、経済の話まで話し合いが進み、バングラデシュをより深く知ろうとする国際奉仕活動グループが出来上がった。

デムラ村到着後、小学校に向かう。学校前の道路両脇では、全校生徒が並び、彼らよりフラワーシャワーの歓迎を受ける。思わず最高のおもてなしと彼らの輝いたまなざしに、我ら一同、感動の瞬間であった。長い子供たちからのフラワーシャワーのトンネルを進み、学校へ到着。学校関係者や現地ロータリアンの方々との挨拶後、校内の見学、当プロジェクトである衛生指導会の開催、贈呈品の受け渡し、運動会へと進む。

見学の際には、栄 RC より今回寄贈したトイレと 105 メートル掘って作った井戸、そしてポンプの引渡しも行った。その場には、記念のプレートも設置されており、大変心に残る品物であった。

また、その後 学校関係者や生徒、および生徒の保護者、約500人を対象に、衛生指導会を開催。その際に、栄 RC より、子供たちを対象に、衛生用品セット(歯ブラシ、歯磨き粉、爪切り、タオル、石鹼)200セットを贈った。また、コスマポリタン RC からは、文具セット(鉛筆、消しゴム、鉛筆削り)が贈られ、両 RC の友好関係が確かな形として表れたプロジェクトであった。

その後、学校側からカレー料理の昼食のおもてなしを受け、通常は右手にて食するところ、我々日本人は、無理である為、ご了承頂き、スプーンとフォークで頂く。文化や風習の違いを感じた出来事であった。

昼食後、特別に運動会が開催され、われわれも日本からの来賓として出席。子供たちのひたむきで一生懸命な姿を目の当たりにし、この子供たちの輝く将来のために、もっともっと我々で何かしてあげたいという気持ちの下、ダッカ州デムラ地区 HBM GREEN VALLEY KINDER GARDEN 小学校を後にした。



クラブ WCS 活動報告書

名古屋丸の内ロータリークラブ

国際奉仕委員長 田島 陽介

新地区補助金によるカンボジア支援報告

支援日 2010年10月10日～11日

支援先 カンボジア王国 Kampot 州 Kampot 郡 Thnarnng 村
村民数 9, 499人 世帯数 2, 082
小中学生 約640名
首都プノンペンより南西に約180キロメートル
現地支援者 Dr. So Kean Tek

経緯

当クラブは2004－2005年度に縁があり、村の小中学校に職員室を建設、続いて翌年度には病院を建設、小中学生への文房具の提供、病院への薬の供与を続けてきました。この度、ロータリー財団新地区補助金を得て、当クラブの予算をあわせて支援出来る事が出来ました。

支援の効果

今回の支援は長期的に見ても村の住民が治療薬品を得る事により健康増進に繋がる事を期待します。また、子供も増え続けており、水の衛生状態からも回虫の発生が多く同じく治療薬品が確実に効果を上げて子供達の健康状態も大きく改善されます。

課題

①2008－2009年度から2012－2013年度まで5年間継続支援する事の覚書に署名。その後を継続するのか、検討が必要。

②高校の校舎建設を依頼されている。

高等学校の建設は小中学生の通学する意識を高めることになり、ひいては地域社会の活性化、地域を発展させる人材が育成されるものと確信する。

③水の浄化を検討する必要がある。

現在は生活水を雨水からの使用。

(病院は出産目的よりも回虫駆除に貢献。)

病院



職員室



文具支援



WCS活動報告書

今年度、守山RCは新地区補助金の援助を頂き、日本の子供達から使わなくなった楽器を集めカンボジアの子供達に贈る事業を行いました。カンボジアでは5才を超えると働き始める子供も多く、一般的には小学校は3年生までと決められ、労働力としてあてにする親も多いのが現状です。カンボジアではほとんどの子供達が豊かな心をはぐくむ音楽教育に触れる機会さえ持つ事が出来ません。不要になった楽器をプレゼントして、子供達が音楽に触れる事により、希望や夢を持ち健やかに成長していくと考えました。

会員は勿論、守山区の小学校や地域住民に呼び掛けたところ、リコーダーやピアニカを始めトランペット・トロンボーンなど約240個、重量約270kgの楽器を集める事が出来ました。

以前会員が個人的に現地の子供達に贈った経験で、経済的な理由から親が勝手に売り払ったケースもあった為、今回はカンボジア王国文化芸術省と打ち合わせ、音楽の先生を目指すカンボジア王国芸術大学に贈り、授業に役立ててもらう事にしました。

11/25 長瀬輝代之会長を団長に8名の会員がカンボジアに出発、文化芸術省を訪問しました。テレビ・新聞の取材を受け、副大臣と面談しあいの言葉を戴いた。その後持参したリコーダーを持ってプノンペン市内の小学校を訪問、子供達に直接手渡したが子供達の笑顔がとても良かった。

今回のプロジェクトの成果は小さいかも知れないが、継続する事が大切であると考え、親日の国カンボジアに今後も支援を続けようと思います。

平成23年5月30日

世界社会奉仕委員会

東名古屋分区 和田富夫 様

名古屋千種ロータリークラブ

国際奉仕委員長 小山雅弘

クラブ独自のWCS活動報告

キャンヘルプタイランド

創立15周年より今年で13年目となりますキャンヘルプタイランド。

タイの中でもとくに貧しいとされる東北部の子供たちに学校給食や奨学金の援助を続け、より良い教育環境を提供するための寄付で、奨学金プログラム1口で1人の子供が1年間学校で学ぶことが出来、新たに設立されたタイ北部の山岳部少数民族の特別基金は必要な子供に柔軟に使用できる基金です。

有志による寄付金

奨学金プログラム	21名	240,000円
山岳部少年民族プログラム	2名	20,000円
建設プログラム	5名	25,000円
ランチプログラム	2名	10,000円
図書支援プログラム	2名	2,000円
運営経費の寄付	5名	5,000円
	計	302,000円

クラブ寄付

国際奉仕委員会	100,000円	
	合計	402,000円

キャンヘルプタイランド活動報告

2010 年度の奨学生授与式は 2010 年 6 月 30 日～7 月 7 日において行いました。タイ東北地方 10 県において、197 人の奨学生に日本のドナーの皆様の尊い支援金を奨学生に直接届けました。



写真 1 2010 年 7 月 1 日 ムクダハーン県にて・奨学生を一人一人直接手渡します。



写真・3 2010 年 6 月 30 日サコンパノン県新規奨学生の家庭訪問
奨学生の自宅前にて。日本のドナーと記念写真

W.C.S活動報告

クラブ名：名古屋東山ロータリークラブ

委員長名：吉川 寿一

提出日：2011年5月13日

活動内容：「日本国際飢餓対策機構」へ寄付（相手国アフリカ指定）

寄付金額：50,000円

寄付月日：2011年3月23日

寄付先活動内容：<別紙ご参照>

寄付先ホームページ：<http://www.jifh.org/>

<p>領收証 No. 000841</p> <p>名古屋東山ロータリークラブ様</p> <p>¥ 50,000-</p> <p>(JIFH, IVS, 里親, 費用)会費・<u>寄付</u>し、アフリカ支援</p> <p>2011年3月23日感謝をもって 領収させていただきました。</p> <p>一般財団法人日本国際飢餓対策機構 概要と会員登録</p> <p>口座開設所：〒561-0082 大阪府八尾市中町1-14-1 TEL(072)222-2225(FAX)072)222-2155 東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1-100 ピンクビル617 TEL(03)3218-6781(代) FAX(03)3218-4988 神戸 〒651-4158 兵庫県尼崎市田原2-8-1セリ番ハウス201 TEL(078)859-4886 FAX(078)859-4519 広島 〒731-1013 広島県広島市安佐南区緑井2-21-23-201 TEL(082)831-1214 FAX(082)877-3961 愛知 〒465-0064 愛知県名古屋市昭和区鶴舞2-4-14-3F TEL(052)731-8111 FAX(052)731-8114 監査監査：09170-3-68596</p> <p>「日本国際飢餓対策機構」は、国連の指揮官(FAO/WFP/UNDP/UNICRP/UNHCRなど)と協力する 世界の国際援助団体(INGO)です。東洋アフリカ、アフリカ、中南米へのボランティア派遣、農村での取組活動、医療、開拓、教育援助などを実行しています。</p>	<p> 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構 JAPAN INTERNATIONAL FOOD FOR THE HUNGRY</p> <p>大阪 〒561-0082 大阪府八尾市中町1-14-1 TEL(072)222-2225(FAX)072)222-2155 東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1-100 ピンクビル617 TEL(03)3218-6781(代) FAX(03)3218-4988 神戸 〒651-4158 兵庫県尼崎市田原2-8-1セリ番ハウス201 TEL(078)859-4886 FAX(078)859-4519 広島 〒731-1013 広島県広島市安佐南区緑井2-21-23-201 TEL(082)831-1214 FAX(082)877-3961 愛知 〒465-0064 愛知県名古屋市昭和区鶴舞2-4-14-3F TEL(052)731-8111 FAX(052)731-8114</p> <p>2011年4月6日 名古屋東山ロータリークラブ御中 日頃より皆様の温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。 この度も、アフリカで飢餓と貧困と苦悶する方々を見て、御愛によるご歎金 をお送りください、有難うございました。 確かに拝受し、感謝をもって領収書をお送りさせて頂きます。 どうぞよろしくお願い申し上げます。 御会の上にもますますの祝福を、心よりお祈り申し上げます。</p> <p>日本国際飢餓対策機構 愛知事務所 吉田愛</p>
---	--

海外での活動

わたしから始める、世界が変わる

日本国際協力機構(JICA)

現地の人々に与えられた ビジョンを実現するために

日本国際協力機構の取り組みは、現地の人々の暮らしや社会をよりよくするパートナーとして活動して
「創造・発展に寄り添う人々とのつながり」をめざすのです。

「人々が自分自身で自分の命を作っていくこと」
「他人に分からせられない自分」
「毎日違う活動を続けています。



Rwanda / ルワンダ



Uganda / ウガンダ

Bangladesh / バングラデシュ



China / 中国

India / インド



India / インド

Philippines / フィリピン



Ethiopia / エチオピア

Niger / ニジェール



Niger / ニジェール

Sudan / スーダン



Cambodia / カンボジア

中南米



Bolivia / ボリビア



Bangladesh / バングラデシュ

アフリカ



Uganda / ウガンダ

中南米



Ethiopia / エチオピア

アジア



Niger / ニジェール

アフリカ



Sudan / スーダン

中南米



Cambodia / カンボジア

アフリカ



Bangladesh / バングラデシュ

中南米



India / インド

アフリカ



China / 中国

アフリカ



Philippines / フィリピン

アフリカ



Uganda / ウガンダ

アフリカ



Niger / ニジェール

アフリカ



Ethiopia / エチオピア

アフリカ



Sudan / スーダン

アフリカ



Bangladesh / バングラデシュ

アフリカ



India / インド

アフリカ



China / 中国

アフリカ



Philippines / フィリピン

アフリカ



Uganda / ウガンダ

アフリカ



Niger / ニジェール

アフリカ



Ethiopia / エチオピア

アフリカ



Sudan / スーダン

アフリカ



Bangladesh / バングラデシュ

アフリカ



India / インド

アフリカ



China / 中国

アフリカ



Philippines / フィリピン

アフリカ



Uganda / ウガンダ

アフリカ



Niger / ニジェール

アフリカ



Ethiopia / エチオピア

アフリカ



Sudan / スーダン

アフリカ



Bangladesh / バングラデシュ

アフリカ



India / インド

アフリカ



China / 中国

アフリカ



Philippines / フィリピン

アフリカ



Uganda / ウガンダ

アフリカ



Niger / ニジェール

アフリカ



Ethiopia / エチオピア

アフリカ



Sudan / スーダン

アフリカ



Bangladesh / バングラデシュ

アフリカ



India / インド

アフリカ



China / 中国

アフリカ



Philippines / フィリピン

アフリカ



Uganda / ウガンダ

アフリカ



Niger / ニジェール

アフリカ



Ethiopia / エチオピア

アフリカ



Sudan / スーダン

アフリカ



Bangladesh / バングラデシュ

アフリカ



India / インド

アフリカ



China / 中国

アフリカ



Philippines / フィリピン

アフリカ



Uganda / ウガンダ

アフリカ



Niger / ニジェール

アフリカ



Ethiopia / エチオピア

アフリカ



Sudan / スーダン

アフリカ



Bangladesh / バングラデシュ

アフリカ



India / インド

アフリカ



China / 中国

アフリカ



Philippines / フィリピン

アフリカ



Uganda / ウガンダ

アフリカ



Niger / ニジェール

アフリカ



Ethiopia / エチオピア

アフリカ



Sudan / スーダン

アフリカ



Bangladesh / バングラデシュ

アフリカ



India / インド

アフリカ



China / 中国

アフリカ



Philippines / フィリピン

アフリカ



Uganda / ウガンダ

アフリカ



Niger / ニジェール

アフリカ



Ethiopia / エチオピア

アフリカ



Sudan / スーダン

アフリカ



Bangladesh / バングラデシュ

アフリカ



India / インド

アフリカ



China / 中国

アフリカ



Philippines / フィリピン

アフリカ



Uganda / ウガンダ

アフリカ

豊橋ロータリークラブ WCS事業報告

期 間: 2010年11月11日(水)～11月15日(月)

メンバー:

村井会長夫妻、上村60周年記念事業実行委員長夫妻(団長)、 佐藤修司PP夫妻、宮田PE夫妻、佐々木幹事、 松井60周年記念事業委員長、高山プログラム委員長、池田委員長、 渡辺会員、森田会員、河合会員、松井国際奉仕委員長 (計16名)

訪問先: タイ国バンコク国及びチュンライ県ラックペング村

目的:

- タイ国チェンライ県内の山岳民族定住化のため、農業及び環境により土づくりのための教本を配布する(地区補助金対象事業)
- タイ国チェンライ県内の子供達に豊橋メンバーからのおしなが奨学金による教材他を手渡す(豊橋RC WCS継続事業)
- タイ国チェンマイのベンジャシリロータリークラブと豊橋ロータリークラブとの姉妹クラブ締結式を行う(豊橋RC 60周年記念事業)

11月11日(水)バンコク空港無事到着



豊橋ロータリークラブでは過去12年にわたりタイ国バンコクベンジャシリロータリークラブとWCS活動を行つてきています。従いまして今年もバンコク空港にてベンジャシリロータリークラブのメンバーと合流、その際に撮ったスナップです。

11月12日(金) バンコクベンジャシリ RC の例会にて



(豊橋RCが12年行ってきたWCS 継続事業 およびベンジャシリRCとの姉妹締結セレモニー終了後のスナップ)

今年豊橋は60周年記念事業の一環として長く共に活動をしてきたタイ国ベンジャシリロータリークラブと姉妹クラブの締結を行いました。この写真は、先方の例会に出席した際に最後に取ったときのスナップです。

11月13日(土) ラックペンディング村 奨学金授与



(セレモニー風景)



(あしなが奨学金授与) この写真は豊橋ロータリークラブのメンバーが「あしなが奨学金」と称して個人的に寄贈している奨学金による教材他を子供達に直接手渡しているところのスナップです。豊橋ロータリークラブはこの活動を継続事業として行っております。子供達の笑顔が大変印象的でした。



(農業及び環境により土づくりのための教本を配布するための財源を寄贈—地区補助金対象事業—)

長年この地域で支援活動を行って参りました経験から、やはり焼き畑農法で畑を焼いては次に土地に移り住むのではなく、その土地で土づくりを行い同じ土地で定住化を進めることが生活面そして更に子供達の教育面でも重要であるとの認識から今回の地区の補助金を農業及び環境により土づくりについての教本を広く配布することが効果的であるとの結論から今年の事業を行いました

以上

東三河分区 豊川ロータリークラブWCS活動報告書

(中華民国姉妹クラブへのWCS贈呈)

2011年4月28日

豊川ロータリークラブと姉妹締結をしている中華民国(台湾)岡山ロータリークラブ呉太郎会長はじめメンバーが来日した際に開催した歓迎例会で、世界社会奉仕基金の100,000円を手渡す。その際、岡山ロータリークラブ呉太郎会長から、今回は東日本大震災の義援金に使っていただきたいとの申し出があり豊川ロータリークラブ山本信利会長に手渡された。



後日、理事役員会で検討し、5月19日東愛知新聞社を通じ東日本大震災義援金として豊橋善意銀行に預託した。

本社を通じて寄付

19日

豊川RC

東日本大震災義援金

豊川ロータリークラブ山本信利会長は、
義援金10万円を豊橋善
意銀行へ預託した。

回RCは、台湾の岡
山(かなんじょ)ロト
タリークラブと姉妹締
結しており、WCS(世
界社会奉仕)の共同事
業を進めていて、毎年訪
問が実現して時々活動費
を費した時、吳太郎会
長から「日本の被災者
に活用して欲しい」と
申入れがあった。
本社には山本会長と
渡辺謙国議事主任委
員が訪れ、藤村善吉社
長に義援金を手渡し
た。(天野英基)

おまけに
國の都合で掲載が
遅れる場合があります。
ご了承ください。



2011.5.20掲載の新聞記事

2011年5月31日

韓国中央大学校（ソウル）との国際交流
— 研修生の受け入れ —

豊橋東ロータリークラブ
2010-2011年度
国際奉仕委員長 大野 哲

豊橋東ロータリークラブでは、クラブ創立以来、創立の精神である「青少年を対象として、教育・スポーツ活動を通じて国際交流を図り、世界平和に貢献する。」の精神に基づいて、韓国中央大学校との交流をクラブ独自の奉仕活動として継続実施しております。今年度の実施事業は以下の通りです。

記

1. 2010年4月 会長、幹事、国際奉仕委員長を含め5名にて大学を訪問し会合開催。
2. 2010年7月 学生2名を受け入れる。（7月17日～7月24日）

主な内容

<p>①職場体験</p>  <p>会員レストランにて</p>	<p>②産業見学</p>  <p>トヨタ自動車にて</p>
<p>③文化見学 (二川本陣資料館、松井守男画伯作品展の見学)</p>	<p>④文化体験 (豊橋祇園祭見学など)</p>

その他クラブ会員宅でのホームステイにて日本の文化・習慣を学ぶ。

以上

岡崎南ロータリークラブ WCS 活動

岡崎南ロータリークラブ

国際奉仕担当理事 大塚光彦

岡崎南ロータリークラブの WCS 活動は、韓国慶州「ナザレ園」への慰問と支援を行っております。

本年度も 10 月 22 日～24 日に実施しました。

「ナザレ園」とは、1945 年の終戦後、朝鮮半島に取り残された日本人女性の一時避難場所を目的として設置されたが、日本に身請け人のいない女性たちが帰国できずに施設に残り、やがて養老院の体を成し、現在も多数の高齢女性が余生を送っておられます。岡崎南ロータリークラブでは、長きにわたり充実した事業として、今後も支援活動を継続していきたいと思っております。



WCS活動報告

豊田西ロータリークラブ
国際奉仕委員長 松本 敏春

豊田西ロータリークラブ（RC）は、国際奉仕活動事業（WCS）として、11月2日～4日に台北市郊外永和市にある親の事情・暴力等様々な家庭の不幸な事情により入ってきた子ども達の施設「財団法人・台北県私立榮光育幼院」を訪問し、パソコン等購入の為の教育資金を昨年に引き続き贈呈して参りました。

松本敏春国際奉仕委員長・加納一弘会長・梅村正裕直前会長を始め10名の会員で訪問し、現地を見て施設の実情を知ることも出来ました。当日は、榮光育幼院陳麗珍院長より35名の子ども達が元気で暮らす様子、13名の先生、スタッフで懸命に運営されている姿、地域や企業の善意で支えられていることのお話を伺うことが出来ました。

陳院長より施設内の見学説明後、豊田西RCより教育資金の贈呈式を行い、当クラブに対し育幼院より感謝状もいただきました。又、11月4日には台北東海RCの例会（例会公用語は日本語）に出席し、CPA会長始め会員の皆様から温かい歓迎を受け、他国でのメークアップ出席の楽しさを知ることが出来た一日でもありました。





THE ROTARY CLUB OF OKAZAKI EAST
Greenhills myoudaiji 33-1 Myoudaiji-cho Arai, Okazaki Aichi, Japan 444-0864
Phone 0564-23-3065 FAX 0564-26-2085 E-mail:okzk-erc@cello.ocn.ne.jp

世界社会奉仕活動(WCS)報告書

1、プロジェクト名 「カンボジア ティタゴイ小学校支援」

2008～09年度より3ヶ年計画で、教育環境の充実の為の校舎増築・什器・備品・教材・薬・制服・図書等の支援をしてきました。

2010～11年最終年度は小学校の生徒達の飲み水の為の浄化設備の支援と井戸からの地下水を高架水槽にくみ上げ、地上タンクと浄水器で飲料水にする設備を設置。通水式にはクラブ会員4人が現地に行き、村の住民や生徒ほか地区の教育関係者ら約300人の歓迎を受けました。

今回の助成金 200,000 円は当クラブ単独事業として支援しました。



岡崎東ロータリクラブ

2010～2011年度 国際奉仕委員会
委員長 青山俊次



THE ROTARY CLUB OF OKAZAKI EAST
Greenhillsmyoudaiji 33-1 Myoudaiji-cho Arai, Okazaki,Aichi,Japan 444-0864
Phone 0564-23-3065 FAX 0564-26-2085 E-mail:okzk-erc@cello.ocn.ne.jp

世界社会奉仕活動(WCS)報告書

2. プロジェクト名 「アマゾンの植林事業支援」

当クラブでは、11年前から単独事業としてアマゾニア森林保護植林協会に植樹の助成金 100,000 円を継続支援してきました。

今年度は新地区補助金 159,160 円とクラブからの助成金 160,000 円総額 319,160 円の支援金を持って、今回初めてクラブ会員4名が現地視察と支援活動を行いました。2011年1月24日～2011年2月3日(11日間)日本から飛行機を乗り継ぎ片道約30時間、距離にして 22,500kmをかけてブラジルペレン、アマゾン河口に近いサンタイザベル地区で南洋材のチーク苗木の植樹をしました。

現地では広大な土地と自然が作り出している原生林が広がっていた、しかしその一方乱開発で荒廃が進み、原生林の面積は減少傾向となっている、地球温暖化がクローズアップされている現在、環境保全は地球規模で考えないと取り返しのつかない事態を招くと懸念されます。

11年前の植栽木が20～30mに育っており、野生動物やカメレオンが戻って来たとも聞きました、今後も助成金の継続支援活動を実施する予定であります。



岡崎東ロータリクラブ
2010～2011年度 国際奉仕委員会
委員長 青山俊次

2010-11年度WCS活動報告書

平成23年 月 日

西三河中分区

岡崎城南R.C

国際奉仕委員長 中根常彦

- | | |
|----------|---|
| 1 事業内容 | 奨学金の支給、文房具の寄贈 |
| 2 寄附金の用途 | クラブ奨学会KIBOHの奨学金 |
| 3 訪問目的 | 当クラブで設立した奨学会KIBOHより奨学生6名に奨学金
(総額\$3,000の支給)と文房具(\$1,000)を寄贈
(尚、後述のとおり当クラブ有志で設立した「あおい奨学会」
の奨学生10名に対しては、別途同任意団体より総額
\$4,900の寄贈) |
| 4 実施時期 | 2011年2月11日～15日 |
| 5 派遣会員 | 5名 |
| 6 同行者 | 元米山奨学生京幸一(日本国籍取得ミャンマー出身) |

岡崎城南ロータリークラブは、国際奉仕活動としてミャンマー教育支援プログラムの奉仕活動を行っており、本年第12回目となるミャンマー訪問を行った。ミャンマーの古都パガンへ、自費参加のクラブメンバー5名と本奨学会カウンセラーの元ミャンマーメンバー京氏を含め計6名が訪問した。

当クラブは、1998年から、ミャンマー各地に図書館、給水施設の築造や道路整備などの教育支援プログラムを行ってきたが、クラブ創立20周年を期に、クラブ有志で設立した「あおい奨学会」で実施していた奨学金制度を、クラブの奉仕活動として拡充した。この制度はミャンマーの医学生を支援する目的で行っている。

ミャンマーには医科大学は4校しか無く、全国で2600名の優秀な学生しか入学できない。出身地域により入学できる大学が指定されている。そこで成績優秀でも貧しさから進学できない学生を支援するため当クラブは、10年前に当クラブメ

ンバー有志で創設した「あおい奨学会」をクラブ設立20周年を期に拡充し、当クラブが「奨学会KIBOH」を設立した。毎年2-4名を奨学生として受け入れ大学入学から卒業までの5年間奨学金を支給している。

前記「あおい奨学会」の奨学金すでに5名の卒業生が医師となり、医療活動に従事している。

医学生の奨学金は1年間\$500～\$600である。学生達は1年間の授業料と衣食住の必要金額は計約\$1,000で生活できる。日本とは比較にならないほど価値のある奨学金であるため毎年奨学生候補への申し込みも多いが、奨学金資金の関係上当クラブは毎年苦渋の選考をしている。

今回ミャンマーの古都パゴンにその奨学生16名と現在医師になった5名の卒業生をヤンゴンに招待し、当クラブ会員が学生達に今年1年分の奨学金を手渡しで支給した。

また、今回併せて、事前にクラブ会員から文房具購入のための募金85,476円を集め、文房具購入費用として現地ボランティアに手渡した。



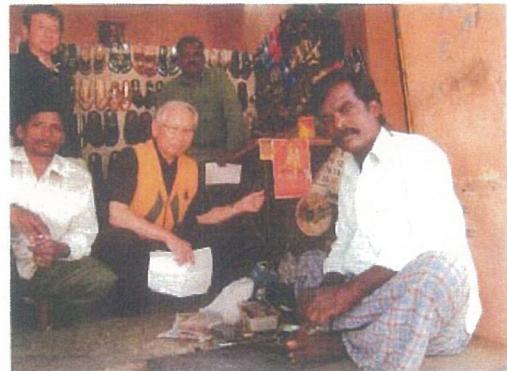
2010~2011

インドの農村貧困者に対する貧困撲滅のための事業支援 豊田三好ロータリークラブ

番号	訪問日	事業名	事業者	住所	事業費 ルピー
1	12/27	スリッパ製作販売	N.Main & C.Moorthy	Periyakuppam,Thiruvallur.	35,000
2	12/27	スリッパと靴製作販売	D.Mani & Mrs.Parimalam	Poonna Wanar Thiruvarall	35,000
3	12/27	ウズラ飼育	Mr.Pandian & Mrs.Malani	KG.Kandegai.	10,000
4-1	12/27	乳牛飼育と牛乳販売	Mrs.Venkatarathana W/Odanachezhiyan	Beera kuppam.	30,000
4-2			Mrs.Nagammal W/O Kuppaidya	Beera kuppam	30,000
4-3			Mrs.Mangula W/O Maathaiya	Beera kuppam.	30,000
4-4			Mrs.Nagarathnam W/O Venkgatashan	Beera kuppam.	30,000
4-5			Mrs.Uma	(写真無)	30,000
5-1	12/28	朝食サービス	Mrs.s.Chinnamma	Thiruttani	10,000
5-2		衣料品販売	Mrs. Suguna	Agoor.	
5-3		薪販売	Mrs.Rangaammal	Beera kuppam.	

Total 240,000

No.1 スリッパ製作販売 No1



No.2 靴とスリッパ製作販売 No2





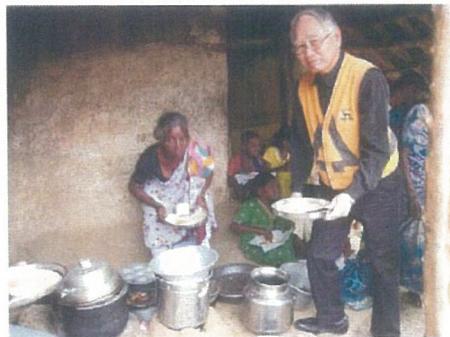
No.3 ウズラ飼育販売 No3



No.4-④乳牛飼育、牛乳販売 No7



No.4-①乳牛飼育、牛乳販売 No4



No.5-①朝食サービス No8



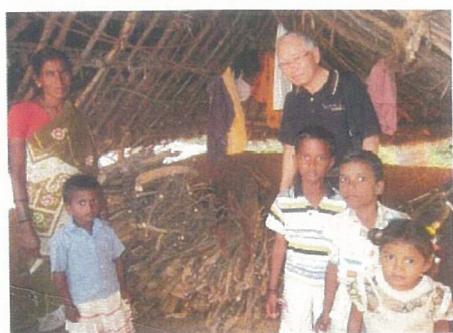
No.4-②乳牛飼育、牛乳販売 No5



No.5-②サリー販売 No9



No.4-③乳牛飼育、牛乳販売 No6



No.5-③薪販売 No10

WCS実践活動「刈谷の森」

第2760地区

刈谷ロータリークラブ

国際奉仕委員長 杉浦 芳一

10月8日(金)～11日(月)までタイ・チェンライ県チェンセーン地区の植林活動へ太田会長、岡本直前会長他計6名で行ってまいりました。

昨年度より5ヵ年計画の一環でスリン地区に続き、第二段チェンセーン地区への植林で、当日々村長さん・地区住民・小学生・軍隊・天然資源環境省・我々と総勢100名による刈谷の森植林実践活動を住民と一緒にチーク材になる苗木を植えてきました。総本数1800本の予定です。植えてくるだけでなく下草刈り、水やり、枝払い等々、現地の人達にメンテナンスをお願いし、刈谷の森を守っていただくよう頼んでまいりました。

メコン河沿いで向こう岸はラオスとの国境です。一山すべてが刈谷の森になる大変素晴らしい景色のところです。タイ北部山岳民族の村でお米・バナナは豊富にありますが産業がなく自給自足の生活をしているところであり、文房具をお土産にたくさん持つて行きましたが、子供達だけでなく大人も欲しいということであつたという間になくなってしまいました。子供達は礼儀正しく全員が一人一人お礼を言ってくれましたし、その瞳の輝きがとても綺麗でした。村人達には木の大切さ、森の住民への恩恵、そして地球環境への影響等々、オイスカ職員による説明、そして各グループ代表の挨拶等和やかなムードで森の大切さとロータリーのWCS活動の意味を伝えることができました。



2010～2011年度 知立ロータリークラブWCS活動報告

知立ロータリークラブ
国際奉仕委員長 渡辺伸一

事業名 「タイ・チェンマイ 先天性小児心疾患手術費用支援事業」
支援金額 1,200,000円
現地視察期日 2010年11月14日（日）～17日（水）
現地訪問者 会長以下12名の会員

知立ロータリークラブが、創立15周年以来WCS事業として継続してきたタイにおける家庭用浄化廃水処理装置設置事業は、現地コラート市が行政レベルで継続していく体制を整え、一応の成果を見ることができた。今回、20周年事業としてのWCS事業は一連の事業により繋がりを持ったタイへの支援と決定し、認定NPO法人ピープルズ・ホープ・ジャパンの協力を得て、チェンマイ大学病院にて貧困層の子供達に対して行われている手術費支援他を実施した。

◆小児先天性心疾患手術支援

・手術実施

小児先天性心臓病患者への手術)
(手術患者)
生後8カ月から12才までの子供5名
2010.10.20～11.30に手術実施



・機材整備

同手術実施に必要な医療機材整備
(血液中酸素濃度計寄贈)
心肺機能状態を知るために必要な機材で
チェンマイ大学病院小児科に寄贈した。



・マンガ本寄贈

タイにおいて子供達に人気のある日本のマンガ（タイ語版）をチェンマイ大学病院小児科や子供発達支援センター図書コーナーに寄贈した。
入院中の子供達が読んだり、所定の手続きで借りることもできる。

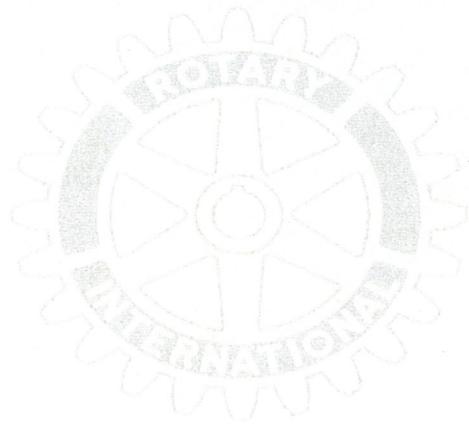
・保健教育視察



国際ロータリー第2760地区2010-11年度
クラブ独自のWCS活動報告書

WCS実施国	ネパール国
地区名又はクラブ名	第3292地区 マホボーダRC(ネパール)
プロジェクト名	文房具支援
国際奉仕委員長名	三浦隆司
WCS実施内容	<p>ネパールは、後発開発途上国であり、貧困問題や教育問題をはじめとしてさまざまな問題をかかえています。</p> <p>2010年12月23日～30日の日程で当クラブ会員家族他10名で貧困のため裸足で生活するネパールの子どもたちに当クラブより調達した文房具品を届ける活動をしました。</p> <p>マホボーダRC会員スレンド・ラサキヤ君紹介で在ネパール日本国大使館も表敬訪問しました。</p>





國際ロータリー第2760地区

WCS活動視察旅行報告書



世界社会奉仕委員会

地区WCS活動「タイ、ベトナム訪問」

第2760 地区西尾張分区
ガバナー補佐 高木輝和

本年度の地区国際奉仕担当として、地区WCS活動であるタイ・チェンマイ地区学資金贈呈式と、ベトナムの幼稚園建設と米2tの引渡し式に参加させて頂きました。

私自身、アフリカが大好きで、今まで何回も訪れました。動物園の動物とはまるで違って、大自然の中でのびのびと走り回っているのが大好きです。そしてもう1つ、文明社会とは違って、子供達が生き生きと飛び回り、すばらしく元気な顔が大好きだからです。

今回も、チェンマイの子供達、ベトナムの子供達の貧しいけれども輝く目を見た時、同じような感動を覚えました。世界どこの国に行っても、子供達は素晴らしい。子供達に、チョコレートを渡した時、もらっていいかどうか考え、躊躇していましたが、無理矢理渡してやると本当に喜び、ぎゅっとぎりしめている姿が今でも目にやきついております。

今まで、ロータリーのこのような活動には、なかなか参加する機会はありませんでしたが、ガバナー補佐という重責をお受けし、ロータリーの素晴らしい活動に参加できたことに、大変感動しております。私自身のロータリー歴の新しい1ページになつたような気がします。

ロータリーの皆さんのが楽しく参加できるよう、一部の皆さんのみが活躍するのではなく、できるだけ自分の目で見て理解してもらうことが、今後の課題だと思います。これから地区世界社会奉仕委員会のますますの活躍をお願いして筆をおきます。



子供たちにチョコレートを
(ベトナム)



引き渡し式 (ベトナム)

WCS に参加して

地区国際奉仕委員長 黒田勝基

今年度も地区国際奉仕委員会の最大プロジェクトの WCS に参加しました。

地区世界社会奉仕委員会の佐藤委員長、委員の皆様、同時に行われましたグローバル資金を使っての台湾第3500地区の新竹RCとのプロジェクトに尽力を尽くしていただいた識字率向上委員会の鈴木委員長、地区識字率向上委員の皆様、ありがとうございました。

今年度は特に、私の所属クラブである高浜クラブの奉仕活動としてタイ、チェンマイ地区へのプロジェクトが同時期に行われており、地区の毎年の日泰ロータリー愛知奨学基金の贈呈式にも多くの高浜クラブのロータリアンが参加しました。いつもながら、少数民族の子供たちの感謝の意の民族舞踊を見て、このプロジェクトの素晴らしさを実感しました。

休む間もなく、ベトナムへ移動。時間的にきつい奉仕活動が続きました。詳細は報告がありまますので感想を述べたいと思います。

世界社会奉仕活動は数あるロータリーの奉仕活動の中で、ロータリアンが自ら行動を起こし、奉仕とそこから発せられる感謝を体験できるものです。日本にいると、世界の人々が生きていくだけですらいかに厳しいことかがわかりません。ましてや、そこにいる子供たちや、その社会を構成している人々が何を求めているかも直接的には感じ取れません。現地に行って、現実を見て、人々の現状を知ることから本当の奉仕が生まれてくると思います。現地に行けば、写真やテレビでは感じ取ることができない、温度や気候、におい、喧噪や我々に対する感情などの環境に我が身をさらすことができます。そこから本当の奉仕をしたい、奉仕をしなくてはならないモチベーションも湧いてくると思います。

地区委員会ができるることは、そういう社会のニーズを改善するスポット的なハードウェアーを提供する程度です。学校を作り、教育の環境を整える。せいぜいその程度です。

ぜひ、各ロータリークラブの会員の方になるべく多く参加していただき、現場を見て、ニーズを吸収し、その後の未永い地道な奉仕=継続性のある、本当の意味での地域を育て、改善していくという=活動に参加していただきたいと思います。

一次元的な瞬間としての地区委員会のプロジェクトに端を発し、各クラブでの継続的で地道な二次元的な奉仕、さらにマッチングプロジェクトとしての国と地域をまたいだ三次元的な広がりを持った世界社会奉仕に育つことを祈念しています。

今年度で地区国際奉仕委員長の任を終了しますが、今後もこの WCS 活動に参加したいと考えています。ありがとうございました。



WCS ベトナム隨行記

2008年度ガバナー

片山 主水

2011年2月10日から2月15日まで、高木輝和西尾張ガバナー補佐を団長に、黒田勝基地区国際奉仕委員長、鈴木吉男地区識字率向上委員長・酒井武法丈副委員長、篠橋美久地区ロータリー財団グローバル補助金委員長ほか地区委員の人達及び各クラブの皆さん方、高浜RCの方々も合流された、主催委員会の佐藤文昭WCS委員長率いるWCSベトナム奉仕活動視察使節団に、お誘いを受けて隨行させていただきました。大変なお骨折りの佐藤WCS委員長には心からお礼申します。

私は、都合により1日遅れで、参加しましたが、セントレアでの大雪に2時間以上の機内足止めを食い、台北・香港で乗り継ぎ、その日の深夜ホーチミン(旧サイゴン)市内宿舎に着いくという想定外のハプニングがありました。

今年度の世界社会奉仕活動は、1994年度から始まった日タイ愛知ロータリー奨学基金による奨学事業と、地区及び協賛クラブの出捐による生徒・児童に対する食料支援と校舎建設支援の2つの事業と、ロータリー財団グローバル補助金利用による識字率向上事業でしたが、WCSはロータリーの国際奉仕活動の中でも重要な一分野であるとともに、多くのクラブにとって国際奉仕活動として、最適の活動だと思われます。

どんな奉仕活動でもその遂行の中に大きな感動がありますが、WCSの感動もまた他の奉仕活動の感動に優るとも劣りません。

そして、毎年行なわれているこの使節団の派遣。この使節団の派遣は、1988年度より始まっていると記憶していますが、会員同士の親睦によく、国際親善・友好によい。奉仕に参加して歓びに逢い、奉仕のその後の検証も可能。現地の現状を目の当たりにして再度の奉仕を思う。奉仕と親睦、両輪を兼ね備えた優れものの使節団です。

参加させていただいて、その感を強くします。来年も必ず参加します。

百聞は一験に如かず。皆様もどうぞご参加下さい。



10-1-1 W C S活動に参加して

名古屋名東ロータリークラブ・W C S委員 和田富夫

今年のW C S委員会は3つの援助を行いました

1つ目はタイ国チェンマイにおける「愛知奨学金基金引渡し」であります。山岳民族の子どもたちに手渡しで差し上げました。額は多くはないけれど、子どもたちはとても喜んでおりました。奨学金を管理しているドクタースミン氏は、タイの子どもたちは裕福になった。次はちがう国の子どもたちに上げたらしいといっていました。

2つ目は、ベトナム国、テエンホアの保育園の新築の引渡しです。今までの環境に比べて立派な園庭になりました。村の人が多く出席して、心のこもった引き渡し式ができました。

3つ目はベトナム国、障害者基礎教育の寮生に対し食料品の支援を行いました。具体的には現地でお米を二トン購入し、寄付をしてきました。



地区WCS委員として（報告）

地区WCS委員 村瀬秀和

本年も地区のWCS活動に参加させていただきました。

先輩諸氏が続けているタイ 3360 地区の「愛知奨学金贈呈式」に参加し、タイの山岳民族の子どもたちに奨学金を渡しました。（この奨学金についてご存じない方は、クラブのWCS担当にお聞きください）

贈呈式終了後、すぐその足でベトナムに行きました。昨年 11 月に建設契約をした場所を思い浮かべながら、ドンホイの北 100km. くらいの街ティンホアに到着すると、予定地には立派なピンク色の幼稚園が建っていました。

途中には、隣国の中国や韓国からの援助で造られた橋や建物が目立ちましたが、日本の援助の物件には小さく「JICA」と書かれていたり、日本とベトナムの共同工事と書かれており、壳込みの下手な日本を痛感しました。ただ、中国とベトナムとは緊張状態にあるようです。ロータリーの奉仕の心も欲の深い中国には通じないようですが。でも、幼稚園での子どもたちの姿を見て、奉仕の心を忘れないようにしたいと思いました。



2010～2011年度 WCS 活動報告書

RI 2760 地区

世界社会奉仕委員会 鈴木宏司

(半田南ロータリークラブ)

今年度初めて世界社会奉仕委員会に参加しました。11月7日にティエンホア人民委員会との幼稚園園舎新築工事契約を交わして、わずか3ヶ月でただの荒れ地だった所へ立派な幼稚園園舎が完成していたことには大変驚かされました。

またドンホイ市の障害者基礎教育学校へお米の贈呈においては、ただお金渡しての援助ではなく、実際にお米を購入して届けた所にベトナム国の難しさを感じました。

どちらの活動にも、元米山奨学生のタンさんとタンさんのご両親に大変お世話になりました。このように皆さんの協力があって WCS 活動もなりたっている事を実感しました。



2011.2/10～2/15 バンコク／ベトナム WCS 活動 旅行

愛知長久手R. C 小谷恒夫

今回の旅行で印象的であったのは、バスでの移動でした。バスがいすゞのインターフィーラー付ユーロ仕様で乗り心地と空間が良く、250キロに及ぶバスという車での移動が、充実したものになりました。途中の道路ではスピード違反の切符も切られたり、乗員オーバーの

検問があったりで、ベトナムの道路事情や交通事情もあるのか厳しいものだという印象でした。

バンコクのチェンマイでは愛知奨学基金の贈呈があり、村の子供たちの伝統の踊りがあり興味深いものでした。子供たちのはにかんだ様子や笑顔がとても清々しい感じの一日でした。

ベトナムのドンホイ村では、養護施設にお米を贈るということで出向き、現地のお米が2トン運ばれ、50キロ入りが40袋をトラックの荷台から施設の部屋へスースを着たまま協力して運びました。運んだ後、黒いスーツがお米袋から出る米の粉で白い斑点模様のスーツになり少し反省しました。作業着でやはり運ばなければと思いました。現地のお米が現物支給されることやお米を運ぶ労働を少しさしてもらい、奉仕活動のほんの一部を実体験できたことは有難いです。

ドンファオ村では、地形が低いところにあるのか洪水で木造の幼稚園が流されるということで、ブロックの幼稚園を寄贈して贈呈式がありました。色の綺麗な幼稚園が完成して子供たちも喜んでいた様子がありました。貧しい村におけるインフラの整備はかなり厳しい感じがしました。

現地の村人や子供たちにふれ合い、改めて自分自身が勉強させられるWCS活動旅行がありました。



2010～2011年度WCS活動について報告

名古屋中ロータリークラブ 篠 橋 美 久

このたび、地区世界社会奉仕委員会にて企画されたWCS活動に参加し、去る2月10日（木）から15日（火）5日間の日程にて、3360地区（タイ国チェンマイ）及びベトナム（ドンホイ、ピエンホア）に訪問して参りました。

当地区からは、片山パストガバナー、高木ガバナー補佐始め10数名の参加があり3360地区のロータリアンとの親睦を深めることができ、有意義な訪問でありました。第1日目は、愛知ロータリー奨学基金が3360地区（チェンマイ）に設立して以来、長年に渡りチェンマイ地区の選抜された小学生への奨学金を贈呈してまいりました。今年も例年に従い小学生70名程に奨学金が渡されました。

この席上、3360地区Dr.Suminパストガバナーより、R I会長の方針の一つでもある「識字率向上」が言われております。現在当3360地区にあります愛知ロータリー奨学基金を通じ、山間部、農村部等の子供達に対し使わせて頂きますと共に、2760地区のロータリアンとの友好を深め、今後も奨学金の友好な活用を致して行きたいとのご挨拶がありました。

これに対し、高木ガバナー補佐より、「分かち合いの心」の精神の基、「これからも長いお付き合いをしましょう」等の挨拶を致し、参加者一同記念撮影をし無事終了しました。

この奨学基金贈呈式終了後、次の訪問国のベトナムへ移動。

翌日、ホーチミン市より空路ドンホイまで移動し、障害児施設へお米2トンを寄贈し、この後ピエンホア村に対する幼稚園建設は、米山奨学生「タンさん」の出身地であり、ベトナムの中でも貧困地域であり、村独自の資金では、幼稚園の建設が困難との事で今回のプロジェクトが実現した案件とのことでした。

建設後の建物を視察し記念撮影の後、村人達と一緒に祝賀会を開催し園舎建設の話に花が咲き、現地関係者方と懇親を深め、楽しい時間を過ごしたと思います。

翌日、フエ市後にして、ホーチミン市より帰国の途につき参加者全員無事元気にもどつくることが出来ました。

今回の視察は、過密スケジュールでしたが、楽しい良い思い出が新たに加わり私の人生の一ページになったと思います。これも、参加者された皆様始め機会を作つて頂きましたWCS委員会メンバー様に感謝申し上げる次第です。

また、機会があれば参加したいと思います。



WCS視察旅行に参加して

地区識字率向上委員長 鈴木吉男

2月10日から16日までの地区WCS委員会視察に参加し、地区識字率向上委員会として10日、11日は別行動で、第3500地区の新竹南ロータリークラブが中心に行っている台湾新竹県の辺境地域へ行き、原生民集落の子供達の識字計画の現状を視察してきました。

この事業は国際ロータリー創立100年を記念して計画され、6年に亘る長期計画で行われた事業であり、最後の年に第2760地区識字率向上委員会として、グローバルグラントに参加しました。

新竹南ロータリーと新竹家庭扶助センターとが提携して、「親子図書館」「団地集落の子供図書ネットワーク」「巡回図書箱及び巡回バス」の3つのプログラムを6年の長期ビジョンものと行ったすばらしい事業です。

そして今年度は貧困な子供達に対する思いやりの精神に基づき、奉仕対象を拡大し、最も辺境な山地小学校まで拡大した事業が行われました。

我々は最初、なぜ台湾で識字率なんだろう？ そんなの必要ないのではないかと思っていました。新竹南ロータリーのメンバーにお聞きしますと、山の中の部落では原住民が教育を充分に受けることができず、ちゃんとした就職ができず、悲しい生活を送っているとのことです。日本ではどんな離島でも山奥でも、義務教育がちゃんとなされていて、現代では考えられません。

そしてこのプロジェクトのもう一つの素晴らしいところは、新竹市にある5つのロータリーが協力しているところです。そして、またそれぞれのロータリーの友好ロータリーを巻き込んで行われていることです。わが2760地区でも分区単位で何かプロジェクトを組んで事業が行われれば、今までのロータリーの枠組みとは違った展開ができるように思います。

「百聞は一見にしかず」と言いますが、貴重な体験をさせていただけたことは、今後の識字率向上委員会活動に役立つと思います。



地区国際奉仕委員会活動に参加して

識字率向上委員会 堀江英弥

今年度、はじめて地区国際奉仕委員会活動に参加して、2月10日から15日まで、台湾・タイ・ベトナムの3カ国での奉仕活動に参加してまいりました。初日はA班・B班は台湾まで一緒にフライト、B班識字率向上委員会3名は台湾で降り、台湾の新竹南RC合同で山岳民族の識字率向上のため移動図書館に書籍購入資金を寄贈、その後新竹南RCの新春夜間例会に参加してきました。A班WCS委員会と3クラブの国際奉仕委員会10名はその日にタイバンコック経由チエンマイに入り、翌日、日タイ愛知奨学基金引渡し式を行いました。この奨学基金は約1600万円の運営資金で毎年70名に一人9千円程の奨学金制度です。終了後ベトナムのホーチミンへフライト。A班・B班・C班（片山パストガバナーと1名）がベトナムのホーチミンで合流、翌12日ドンホイに、3時間遅れ空港から車で1時間半ほど離れた障害者の小学校へ、ここでは79名の学生うち39名が寄宿舎で生活していました。校舎は日本政府の援助で建設されたが運営費が十分ないため、食糧援助として参加者のドネイーションでお米2トンを寄贈しました。13日フエから1時間半をかけラオスの国境近くの町で幼稚園引渡し式を行いました。地区から3万ドルの援助残額約8千ドルは地元が支払うことで、以前みすぼらしかった園舎が立派に建直されて可愛らしい園児の輝いた目が印象的でした。引渡し式に各クラブのバナーもかかげてきました。きっと長く飾られるでしょう。14日はダナン経由ホーチミンで1泊し台湾を経て名古屋に総勢15人無事帰国しました。

6日間の奉仕活動を終えて、各国でそれぞれ国情の違いで、台湾ではかなり高きレベルでの識字率向上のための奉仕活動であり、ベトナムではまだまだソフトの奉仕活動よりハードの部分の奉仕活動が必要に感じました。しかし、経済状態や教育格差はあるでしょうが、世界での奉仕活動、人とひとのふれあいの必要性を感じました。

また、WCS・識字率向上委員会の各委員長のきめ細かい準備や行動に感謝いたします。

次回も機会があればぜひ国際奉仕活動に参加し、少しでも国際社会に貢献できればと思います。



R I - 2 7 6 0 地区 2 0 1 0 - 1 1 年度 WCS 活動に参加して

度会 尚志

今回は自分の日程の関係でWCS活動の一つ タイ、チェンマイでの愛知奨学金基金の引渡し式に参加できなくて大変残念でした。

2月11日（金）大変名誉な事に片山パストガバナーと共にベトナム、ホーチミンに台北経由で向う日程でしたが、雪の為に2時間遅れとなりました。大した雪でもなく、滑走路の除雪作業を行なうと思っていたら飛行機の翼の箇所に放水作業を行なうとの事。設備機器2台の内1台が故障、離陸時間が大幅に遅れました。13時55分発 台北～ホーチミン行きに遅れること30分。願も虚しく、前日から台北入りしグローバルグランドの打ち合わせの為3500地区との会合に臨んだ地区識字率向上委員会のメンバーに合流する事が出来ませんでした。結果、香港経由でホーチミン入りすることになり宿泊ホテルに着いたのは夜中でした。片山パストガバナーには、大変なご苦労とご心配をお掛けしました。

翌日 目的地のドンホイに向かいましたが、アジアの国内線にみられるように出発が大幅に遅れました。クアンビン省ドンホイ市に到着後、障害者の小学校を訪れました。この校舎は日本政府の支援に依って2004年に建てられたそうです。栄養事情が悪いとの事で米2tのドネイションを行ないました。寮生の生活する寮を見学させてもらいましたがあまり良い環境ではありませんでした。

2月13日（日）今回の目的であるティエンホア幼稚園の園舎引渡し式が始まりました。

園舎は平屋建てで外観は黄色とピンクを基調とした大変綺麗な建物です。以前の園舎の写真をみせてもらいましたが、子供たちの笑顔を見るまでもなくWCS活動に参加できて良かったと思いました。式典は日本の国旗とロータリー旗を掲げ、地区内から持ち寄った各バナーを飾り厳かに始まりました。子供たちにお菓子を配り、ホーチミンの肖像が掲げられている会議室に場所を移し、建築費受け渡しのドネイションが始まりました、緊張感の中

お互い代表者による書類へのサインを行い、支援金の引渡しを行ないました。

今回の参加を通じて、ただ単なる支援金を相手に渡す行為だけではなく、地道な打ち合わせを行い、現地に足を何度も運び確認しながら支援を行っていくWCS活動の大切さを知ることが出来ました。



2011年2月10日～15日地区WCS視察旅行

行程表

2/10 (木)	A班 CI-151 10:50 セントレア → 台北 CI-835 12:25 台北 → バンコク TG120 16:45 バンコク → チェンマイ ドアンタワンホテル 20:10 チェンマイ泊
	B班 CI-151 10:50 セントレア → 台北 12:25 3500地区との会合 地区識字率向上委員会(グローバルグランドの打合せ) 台北泊
2/11 (金)	午前中 チェンマイ愛知奨学金基金引渡式
	A班 TG113 16:00 チェンマイ → バンコク TG156 17:10 バンコク → ホーチミン
	C班 CI-151 10:50 セントレア → 台北 CI-783 12:25 台北 → ホーチミン 13:55 WINDSOR PLAZA HOTEL (84.8) 8336688 ホーチミン泊
	B班 CI-783 13:55 台北 → ホーチミン 16:25 WINDSOR PLAZA HOTEL (84.8) 8336688 ホーチミン泊
2/12 (土)	午前中 ホーチミンで観光とショッピング VN378 12:10 ホーチミン → ドンホイ 13:45 SUN SPA RESORT (84.52) 3842842 ドンホイ泊
2/13 (日)	TIEN HOA 幼稚園 引渡し式
	午後 バスにてフエへ HOTEL SAIGON MORIN (84.54) 3823526 フエ泊
2/14 (月)	ベトナム 古都フエ観光 VN331 17:30 ダナン → ホーチミン 18:40 WINDSOR PLAZA HOTEL (84.8) 8336688 ホーチミン泊
2/15 (火)	CI-782 11:05 ホーチミン → 台北 CI-150 15:20 台北 → セントレア 17:15 20:55

氏 名	ク ラ フ ・ 名 役 職	会 社 名	会 社 T E L
			会 社 F A X
高木 輝和 TERUKAZU TAKAGI	津島 ガバナー補佐	(株)マルビシ洋装店	0567-26-2950 0567-24-6338
黒田 勝基 KATSUMOTO KURODA	高浜 地区国際奉仕委員長	クロダ・ト工業(株)	0566-41-2848 0566-42-5149
佐藤 文昭 FUMIAKI SATO	長久手 地区WCS委員長	小倉鋼機(株)	052-821-7205 052-821-8123
和田 富夫 TOMIO WADA	名古屋名東 地区WCS委員	友人社	052-202-1191
村瀬 秀和 HIDEKAZU MURASE	東海 地区WCS委員	綜合管理サービス(株)	0562-33-2355 0562-33-4818
鈴木 宏司 KOJI SUZUKI	半田南 地区WCS委員	(株)キヨクヨウ	0569-21-4409 0569-21-4595
小谷 恒夫 TSUNEO KOTANI	愛知長久手	形六(有)	052-758-5018 052-758-5015
籠橋 美久 YOSHIHISA KAGOHASHI	名古屋中 地区グローバル補助金委員長	東菱電子(株)	052-322-3941 052-323-0558
山口 真 MAKOTO YAMAGUCHI	名古屋中 国際奉仕委員長		
箕輪 良孝 YOSHITAKA MINOWA	尾張旭 地区国際奉仕委員	良福寺	0561-53-2388 0561-53-2485
鈴木 吉男 YOSHIO SUZUKI	津島 地区識字率向上委員長	(株)鈴木鉄工所	0567-26-5201 0567-26-5214
酒井 法丈 NORITAKE SAKAI	豊田 地区識字率向上副委員長	豊田警備保障(株)	0565-33-5511 0565-33-5475
堀江 英弥 HIDEYA HORIE	名古屋大須 地区識字率向上委員	(株)サンエキ	052-762-1288 052-763-1147
片山 主水 MONDO KATAYAMA	名古屋東南 パストガバナー	片山主水法律事務所	052-951-0001 052-951-5629
度会 尚志 HISASHI WATARAI	豊川宝飯 地区WCS委員	豊川印刷(株)	0533-86-3349 0533-86-7826

国際ロータリー 2760地区

2010~2011年度 各クラブの世界社会奉仕(WCS)活動一覧

2010年11月24日 現在

分区	クラブ名	活動方針	地区PJ予算	活動地区(クラブ)	活動内容
南尾張分区	半田	クラブ独自		決定したら改めて地区に報告	¥250,000
	常滑	クラブ独自		2010年11月カンボジアJSTボランティア団体と事業	¥300,000
	東海	クラブ独自 プロジェクトに参加	100,000	タイ(3360地区) ミアッサナ・ウタラット・ビチャイラブレ(RC) フィリピン(3800地区) カルサン・ースRC 大学生奨学金授与 バサイ・ミヤ スープ・キッヂン 子供への栄養補給のため の 給食	¥1,000,000
	東知多			タイ・ナン地区放置自転車の贈呈	¥340,000
	半田南	クラブ独自		3350(バンコクスリラン RC) 図書支授 2011/3	¥150,000
	知多	クラブ独自	50,000	決定しなかった場合は 地区委員会プロジェクトに参加	
	大府	クラブ独自		3800フィリピン(ケルセーラ RC) 2010年10月	¥200,000
	一宮	クラブ独自		ネバール・埼玉ユネスコ協会	¥100,000
	津島	プロジェクトに参加	200,000		
	尾西	休止			
西尾張分区	稻沢	休止			
	あま	クラブ独自		タイ・チエンマイ小学校建設時の 備品の支援2011年2月	¥2,000,000
	名古屋清洲	プロジェクトに参加	100,000		
	尾張中央	未回答			
	一宮北	プロジェクトに参加	50,000		
	一宮中央	クラブ独自		3900フィリピン(マニラRC) 無料歯科診療活動	¥100,000
	瀬戸	プロジェクトに参加	50,000		
	犬山	クラブ独自		3460地区日台友好のための 図書の充実、犬山文庫の設立	¥100,000
	江南	プロジェクトに参加	50,000		
	小牧	未回答			
西名古屋分区	春日井	プロジェクトに参加 クラブ独自	50,000	3360韓国(南釜山RC)3510台湾 (東港RC)5060カナダ(ケローナRC)	¥50,000
	尾張旭	プロジェクトに参加	50,000		
	名古屋空港			3800フィリピン(マカティウェストRC) マギ市立大学奨学生金財團支援	US\$85,000
	瀬戸北	プロジェクトに参加	50,000		
	岩倉	プロジェクトに参加	50,000		
	名古屋城北	プロジェクトに参加	50,000		
	愛知長久手	プロジェクトに参加	100,000		
	名古屋	プロジェクトに参加	200,000		
	名古屋西	プロジェクトに参加	50,000		
	名古屋南			ブラジル・サンパウロ南RC	
中部みらい名古屋分区	名古屋みなと	プロジェクトに参加	50,000	決定しなかった場合は 地区委員会プロジェクトに参加	¥50,000
	名古屋東南	新地区補助金の プロジェクトを実施		マレーシア「子供の森計画」への 参加支援	¥1,000,000
	名古屋中	プロジェクトに参加	100,000		
	名古屋瑞穂	休止			
	名古屋大須	休止			
	名古屋栄	クラブ独自		ハングラデシュ3280(ダッカモモリ タRC)小学校トイレ・水道設置	¥268,200
	名古屋名駅				
	名古屋名南	クラブ独自	30,000	タイ・トンチャン寺院付属学校 寮の水浄化	
	名古屋丸之内	クラブ独自		PreyThnang村の 教育と医療支援	¥600,000
	中部みらい 名古屋	休止			

小計 1,380,000

¥6,593,200

分区	クラブ名	活動方針	地区PJ予算	活動地区(クラブ)	活動内容
東名古屋分区	名古屋北	プロジェクトに参加	100,000		
	名古屋東	プロジェクトに参加	100,000		
	名古屋守山			カンボジア・ブノンベンRC 小学校の不要楽器の贈呈	¥650,000
	名古屋和合	奉仕の精神はあるが時間的 負担もあり適切な事業がない	200,000	参加協力することになっ ているが具体的ない	
	名古屋名東	クラブ独自		韓国R3650(普信閣RC) 難病の人の手術代を寄付	¥150,000
	名古屋名北	休止			
	名古屋千種	クラブ独自		Can Help Thailandに参加	¥287,000
	名古屋昭和	プロジェクトに参加	100,000		
	名古屋錦	プロジェクトに参加	100,000		
	名古屋東山	クラブ独自		日本国際飢餓対策機会より アフリカへ支援	
東三河分区	豊橋	クラブ独自		タイ第3350地区 山岳民族定住化・教育支援	¥600,000
	蒲郡	クラブ独自		周年事業にて実施 平年は10万積立	
	豊橋北	プロジェクトに参加	100,000		
	豊川	クラブ独自		台湾3510地区岡山RC 相手づくり二任 2011/4	¥100,000
	田原	クラブ独自		検討中	
	豊橋南	クラブ独自		大韓民国 大学生招請	¥270,000
	新城	休止			
	渥美	休止			
	奥三河	休止			
	豊川宝飯	クラブ独自		決定したら改めて地区に報告	
西三河分区	豊橋ゴールデン	クラブ独自		決定したら改めて地区に報告	
	田原バシフィック	未回答			
	豊橋東	クラブ独自		韓国中央大学校との交流を行い 留学生を受け入れ	
	岡崎	計画なし		決定したら改めて地区に報告	
	豊田	プロジェクトに参加	100,000		
	岡崎南	クラブ独自		大韓民国 ナレザ園支援	¥150,000
	豊田西	クラブ独自		台湾・台北東海RC教育支援	¥100,000
	岡崎東	クラブ独自		アマゾンの森林保護植林事業 カンボジアティゴイ小学校支援事業	¥320,000 ¥400,000
	豊田東	検討中		未定	
	岡崎城南	クラブ独自		マンマー 教育支援プログラム 医学生への奨学生支援	¥500,000
西尾分区	豊田三好	クラブ独自		インド・タルミナ地区 小ビジネス講習会・ 足マット製作訓練の開始	¥482,300
	豊田中	クラブ独自		台湾・台中文心RC	
	刈谷	クラブ独自		3340タイ(スリンRC)チラライ県 刈谷の森づくり	¥350,000
	安城	地区委員会二任	50,000		
	西尾	休止			
	碧南	プロジェクトに参加	50,000		
	一色	休止			
	高浜	プロジェクトに参加	50,000		
	知立			ピーブルズ・ホーリーバン・チエンマイRC 先天性心臓疾患手術費	¥1,200,000
	西尾KIRARA	クラブ独自		決定したら改めて地区に報告	
西三河分区	三河安城	休止			

小計 950,000

¥4,839,300

→ 無回答、休止のクラブ

まだまだ3万US\$には届きません。皆さんのお協力をお願いします。

クラブ独自合計

地区一任合計

¥11,432,500

W C S 活動報告書編集後記

地区W C S 委員会
佐藤 文昭

第 17 回 日泰愛知奨学生基金の引渡式を 2011 年 2 月 11 日にタイ チェンマイ 3360 地区の児童 58 名に直接奨学生を子供たちに送る式を取り行いました。

ロータリーで言われる継続可能な最大の奉仕をロータリアン自らの手で今まで行われた事は諸先輩の当初のご苦労のおかげと思っています。今後もこの事業が継続維持できる様に頑張っていきたいと思います。

次に米山奨学生のベトナム タン氏の依頼で、ベトナム中部 ティアホア幼稚園の改築工事の引渡式を 2011 年 2 月 13 日に行いました。

この地は、雨期になるとラオス側の山岳地から多くの雨水が流れてきて川が氾濫し、多い時には、2m位の水位になるということです。たまたま幼稚園は木造造りで柱と屋根を残して、いつも流れてしまい、これをブロック造りに改築したいという要望があり今回の引渡し式となりました。

この様に地区でプロジェクトを作り、奉仕活動をするのは、小さなクラブ又、他国にクラブの交流が難しいクラブ又、資金が少ないクラブが集い、1つのプロジェクトで W C S 活動をするということで 5 大奉仕の一つである国際奉仕に参加しようという奉仕活動です。

ロータリアンが直接出向いて行って活動をする数少ない奉仕の場だと思います。出来る限りのロータリアンが参加して直に奉仕を感じ取れるいい場だと思います。

まずは、参加して次の機会でも感じて欲しいと思います。

又、各クラブ独自での活動、多くのその他のクラブの方々は参考にして自クラブの国際奉仕、W C S 活動の発展のお役に立てれば幸いです。

以上

R I 2760 地区
世界社会奉仕委員会
委員長 佐藤 文昭 愛知長久手
編 集 地区W C S 委員会